
宮城県がん総合支援センター

5年のあゆみ

～がん患者さんに寄りそって～

宮城県がん総合支援センター

（宮城県対がん協会内）

宮城県がん総合支援センター記念誌発刊に寄せて

宮城県がん総合支援センター長 渋谷 大助
(宮城県対がん協会がん検診センター所長)



宮城県がん総合支援センターの前身は、宮城県立がんセンター内に設置されていた「宮城県在宅緩和ケア支援センター」に始まります。その目的は、在宅における緩和ケアの提供、看取りの実施等のサービスを希望する患者等に対し、総合的な相談・支援を行うことでした。折しも平成19年にがん対策基本法が施行され、平成23年度から、がん患者・家族、ピアサポーター、ケアマネジャー、地域連携統括コーディネータ、医師・看護師等、様々な分野に関する相談をワンストップで提供する「都道府県地域統括相談支援センター」が各都道府県に設置されることになりました。それを受け、宮城県では「宮城県在宅緩和ケア支援センター」を発展的に解消し、新たに公益財団法人宮城県対がん協会内に「宮城県地域統括相談支援センター」を設置することになりました。しかし、宮城県地域統括相談支援センターというのは事業名称で、このままではいかにも内容が分かりづらいということで、「宮城県がん総合支援センター」という名称で事業を展開することになったのです。

宮城県がん総合支援センターが発足してから5年になりますが、がん患者・家族の相談支援、患者会支援、ピアサポーターの育成、研修会・講演会の開催、地域連携支援等、多くの活動を行って参りました。最初は手探りで、多くの専門家の皆様にボランティアでご協力いただいて活動してまいりました。ご協力いただいた皆様には本当に感謝のことばありません。心より御礼申し上げます。

さて、ここで今までの5年間の活動を振り返ってみることは、今後の当センターの活動のために有用であると思われまふ。そこで私どもは、宮城県様をはじめ、これまでご支援・ご協力をいただいた多くの皆様に感謝の気持ちを込めると共に、さらなる「宮城県地域統括相談支援センター事業」の発展を祈念して、「宮城県がん総合支援センター5年のあゆみーがん患者さんに寄りそってー」を発刊することになりました。皆様におかれましては、当センターに対しまして、今までと変わらぬご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。記念誌発刊のご挨拶とさせていただきます。

目 次

1. 事業説明	1
(1) 宮城県がん総合支援センター発足の経緯 三塚篤（発足時の法人事業課長）	2
(2) 活動の変遷	3
2. 年度別事業報告	5
(1) 平成 22 年度（宮城県がん在宅療養支援センター）	7
(2) 平成 23 年度（宮城県がん総合支援センター）	13
(3) 平成 24 年度（宮城県がん総合支援センター）	27
(4) 平成 25 年度（宮城県がん総合支援センター）	37
(5) 平成 26 年度（宮城県がん総合支援センター）	49
(6) 平成 27 年度（宮城県がん総合支援センター）	61
3. 資料	73
(1) 事業連携イメージ	74
(2) パンフレット	76
(3) ポスター	78
(4) ホームページ	79
(5) 地域広報誌 掲載例	80
4. 活動をふり返って	81
(1) 高橋久子（発足時の看護課長）	82
(2) 谷川禎子（相談員）	83

1. 事業説明

宮城県がん総合支援センター発足の経緯

検診課 三塚 篤
(発足時の法人事業課長)

設立 5 周年を迎えた宮城県がん総合支援センター事業実施に当たり、ご指導ご協力をいただきました皆様に対し、心より感謝申し上げます。

平成 22 年 1 月 宮城県は平成 20 年から、がん患者・家族の療養上、日常生活上の悩みや不安等の解消を図るため、県立がんセンター内に「在宅緩和ケア支援センター」を設置して、がん患者本人とその家族に対して相談や支援、情報提供等を実施していましたが、平成 22 年度から宮城県の委託事業（宮城県在宅緩和ケア対策推進事業）として、業務の更なる活性化を図る目的から活動の場を宮城県対がん協会に移すことになりました。

当時、私は法人事業課長を務めており、事業開始まで 2 ヶ月余りの短期間で、支援センターの部屋や面談する場所、担当部署等の内部調整、支援センター活動を多くの方々に広く周知するためのパンフレット等の作成に取りかかりました。

また、宮城県対がん協会では保健師・看護師が電話等で検診受診者を中心に行っている健康相談や医師が相談者と直接面談し、がんについての悩みや不安、疑問等の相談を行っておりますが、これに在宅緩和ケア対策推進事業が加わることから相談の振り分けを上手に行い、応対がスムーズにできるように調整しなければなりませんでした。

平成 22 年 2 月 支援センターの名称を「宮城県がん在宅療養支援センター」に決定し、相談員の部屋は事務局 2 階に設け、面談場所はがん検診センター 1 階の人間ドック診察室を利用し、基本的には午後に面談相談することになりました。相談員は看護課に所属し事務作業は法人事業課が担当することで調整されました。

県立がんセンターの相談員は継続して宮城県対がん協会でも相談業務にあたる予定でしたが、急遽、相談員が辞めると報告があり、4 月から新たな相談員でスタートすることになり、看護協会や医療機関等に連絡し協力してくれる人を探し求めることになりました。

平成 22 年 3 月 宮城県疾病感染症対策室の後藤班長から相談員として働いてもらえる人が見つかったと連絡があり、体制が整いました。現在も相談員として活躍している看護師で介護支援専門員の谷川禎子さんと看護師の田村久美子さんです。

時間的余裕もなく支援センターの広報活動の不足は否めませんが、相談員も揃い 4 月からの支援センター事業に間に合わせる事ができると安堵したことが思い出されます。

平成 22 年 11 月 第 1 回宮城県がん在宅療養支援センター運営委員会を開催。4 月から 10 月までの相談状況と普及活動状況等を報告し、今後の取り組みについて助言をいただき次のステップに繋げていきました。

平成 23 年 2 月 宮城県から平成 23 年度の事業は「都道府県がん対策推進事業の拡充」から事業名の変更が示され「宮城県地域統括相談支援センター事業」に変更し、4 月から支援センターの名称を「宮城県がん総合支援センター」と改名しました。これが、相談支援体制の礎となり現在に至ります。

近年、2 人に 1 人が「がん」に罹る状況において、気軽に相談できる場がより求められています。宮城県がん総合支援センターの活動がモデルとなり、相談支援事業がますます充実されますようご期待申し上げます。

活動の変遷

		H22	H23	H24	H25	H26	H27
名称		「宮城県がん在宅療養支援センター」 (*1)	「宮城県がん総合支援センター」				
事業名		宮城県在宅緩和ケア対策推進事業 (*1)	地域統括相談支援センター事業				
相談支援		—————▶					
アンケート調査			〈対象〉 在宅診療所、 訪問看護ステーション、地 域包括支援センター				
研修会 開催	療養支援サポート 研修会		11月	11月	12月	11月	
	ピアサポーター 育成研修会			【基礎】 7月	【基礎】 8月	【がんサロン】 10月	【フォローアップ】 7月
					【基礎】 7月 (*2)	【基礎】 7月、12月 (*2)	【フォローアップ】 7月 (*2)
患者会 支援	患者会、サロンへの 支援	—————▶					
	講師派遣	—————▶					
	「がん患者会・サロン ネットワークみやぎ」 事務局						10.27 発足式
広報	パンフレット	(1版)	(2版)	(2-2版)			
	ポスター	(1版)		(2版)		(3版)	
	ホームページ				H25.3月開設		
	新聞・広報誌 掲載	—————▶					

*1 平成19～21年度、同事業が、名称「宮城県在宅緩和ケア支援センター」として宮城県立がんセンター内に設置された 平成22年度より宮城県対がん協会が受託

*2 「東北大学病院がんセンター先進包括的がん医療推進室」との共同開催

2. 年度別事業報告

宮城県がん在宅療養支援センター
事業報告
(平成22年度)

平成22年度 宮城県がん在宅療養支援センター事業報告

1. 情報収集・提供

(1) パンフレット配布と支援センターの紹介

	H22 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H23 1月	2月	3月	H22 年度
医療機関	2	1	4	4	2	3	2	1	2	3	3		27
訪問看護 ST	2	1				6					1		10
包括支援センター		1											1
介護支援センター			1										1
患者会	1							1					2
研修会・イベント		2	1	1		2	1		1		1	1	10
その他	3	2	1	1			1	2		2	5		17
小 計	8	7	7	6	2	11	4	4	3	5	10	1	68

(2) ホームページ掲示、ポスター掲示

対がん協会・県のホームページとのリンク

ポスターを作成し、対がん協会がん検診センター内、及び出張検診会場に掲示

(3) 新聞広告・広報誌掲載

①河北「げんき倶楽部」(9/30)

②河北Weekly (10/21)

③河北朝刊 (12/21)

④県政だより (4月、2月)

⑤対がん協会広報誌「ともしび」他

(4) 取材対応

①7/27 : 「河北新報」 <高橋、谷川>

②10/5 : 雑誌「仙台経済界」 <針生、谷川、田村>

(5) 他機関主催の研修会等に参加し、当センターについての普及啓発を実施

2. 相談支援

(1) 相談件数

	H22 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H23 1月	2月	3月	H22 年度	割合 (%)
電話相談	14	5	15	9	4	9	18	7	16	11	15	6	129	82
面接相談	1	2	4	2	0	2	2	0	1	1	2	0	17	11
その他	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	3	11	7
計	17	7	19	11	4	11	20	9	17	14	19	9	157	100

(参考)年度別相談件数

	H20 3月	H20 年度	H21 年度	H22 年度
電話相談	17	45	82	129
面接相談	1	19	14	17
その他	0	0	2	11
計	18	64	98	157
相談窓口 開設場所	県立がん センター	県立がん センター	県立がん センター	対がん 協会

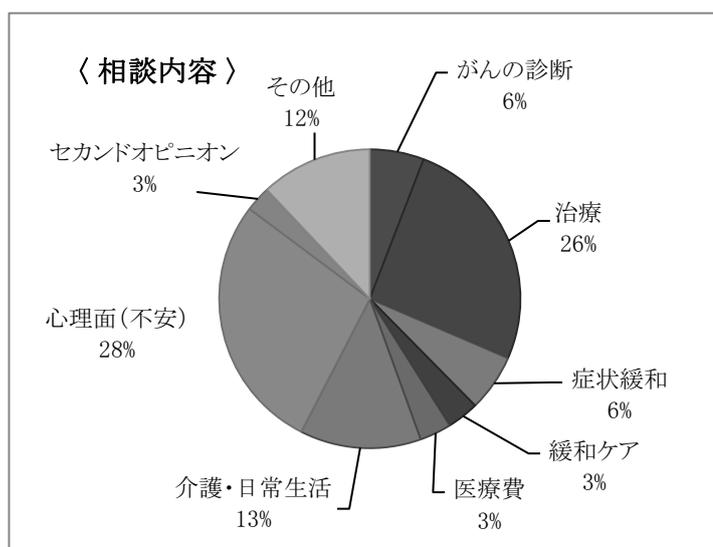
*平成20年3月より開設

[相談者内訳]

	件数	割合 (%)
本人	67	43
家族	75	48
本人と他者	2	1
医療従事者	5	3
その他	8	5
計	157	100

[相談内容別件数(複数計上)]

相談内容分類	件数	割合 (%)
がんの診断に関して	17	6
治療	75	26
症状緩和	18	6
緩和ケア	10	3
医療費	10	3
介護・日常生活	38	13
心理面(不安)	81	28
セカンドオピニオン	8	3
その他	35	12
計	292	100



(2)相談内容 (抜粋)

<p>がんの診断</p>	<p>・がんでは無いと言われたが本当に大丈夫なのか ・StageⅣと言われたがどういうことか ・自分の病状がどうなのか、どの段階にあるのか知りたい ・原発不明がんと言われたがあきらめられない ・「HER2」について知りたい ・診断書に「スキルス乳がん」と書いてあった ・乳がん検診で石灰化と言われ経過観察中だが別の病院で細胞診を受けたい</p>
<p>治療</p>	<p>・重粒子線、免疫療法、ワクチン療法、カフェイン療法、休眠療法、温熱療法について知りたい ・手術を受けたくない ・抗がん剤治療をするのは本人次第と言われたが決められない ・手術にするのか他の方法にするのか決められない ・原発不明がんの治療についての悩み ・治療法が無いと言われたが体力を回復するためのリハビリをして治療を受けさせたい ・治療方針が理解できず入院が負担 ・抗がん剤治療中で、嘔吐が強く制吐剤も飲めない ・ALK治療を行っている病院を教えて欲しい ・ホルモン療法を中止しているが大丈夫なのか ・中国在住の親族に日本の医療を受けさせたい</p>
<p>症状緩和</p>	<p>・術創の痛みがあるがどうしたらいいか ・嚥下の障害あり栄養管理について知りたい ・化学療法中の嘔気や食欲不振はいつまで続くのか ・病院の食事が食べづらいのでサプリメントをとってもいいか ・抗がん剤の副作用なのか、症状が進んでいるのかわからない ・痛みが強くなってきた時の病院での対応に不満 ・痛みの表現方法や伝え方を確認したい ・乳がん術後で患肢の痛みあり、専門的なマッサージはどこで受けられるのか</p>
<p>医療費</p>	<p>・医療費の助成について、障害者手帳の手続きについて教えて欲しい ・年金生活で治療費を払うのが大変 ・薬代が高くてやめてしまった ・子宮がんの手術費用はどのくらいかかるのか ・医療保険、介護保険、緩和ケア病棟費用などについて知りたい</p>
<p>介護・日常生活</p>	<p>・在宅療養をするためには、どんな支援が受けられるのか知りたい ・在宅を考えているが24時間対応してくれる先生が見つからない ・介護施設で看取ることへの不安 ・認知症のあるがん患者の受け入れ施設と往診医を知りたい ・介護している私の方が疲れてしまった ・身の回りのこと(買い物、食事など)をサポートしてくれるところはないか</p>
<p>心理面(不安)</p>	<p>・主治医と話せない ・主治医に自分の気持ちを話していいのか躊躇してしまう ・主治医の言動に不満あり、とにかく話を聞いてもらいたい ・主治医が怖くて話せないので病院を移りたい ・がん患者としての漠然とした不安 ・肺がんかもしれないと言う不安 ・告知直後であり今後の方針を決めるためにサポートして欲しい ・緩和ケアを勧められたがどうしたらよいかかわからない ・治療に対する不安 ・経済的不安(病院入院中の生活費) ・本人への病状告知について悩んでいる ・家族に病状を説明したいが本人が拒否している ・手術が出来ないと言われ不安で夜も眠れない ・報道で転移の話聞き不安になった ・免疫療法を受けたら面倒をみないと主治医に言われた ・共に暮らす家族としての様々な不安 ・離れて暮らす家族としてどう支えたらよいか ・家族としてどうサポートしたらよいか ・夫を支えているが私がまいってしまいそうで誰かに話を聞いてもらいたい ・終末期の患者を支える家族としての悩み ・独居で話を聞いてもらえない ・まだ患者会で話す気にはなれないが誰かに話がしたい</p>
<p>セカンドオピニオン</p>	<p>・セカンドオピニオンとは何か ・費用や手続きについて知りたい ・セカンドオピニオンを受けても治療に影響しないか ・主治医に紹介状を頼みづらい ・自分で色々調べたが、その情報を整理してくれる先生の話が聞きたい</p>
<p>その他</p>	<p>・患者会の問い合わせ ・患者会を立ち上げるための援助を受けたい ・民生委員として在宅緩和ケア対策を考えるのでアドバイスが欲しい ・在宅でのショートステイ先はどこかあるのか(ケアマネより) ・がん患者を受け入れてくれるデイサービスを紹介してほしい ・特定の病院の医師への橋渡しをして欲しい ・友人が原因不明の症状で困っているので何とかしてあげたい ・患者入院中の病院スタッフに対する不満 ・リンパ浮腫の治療を行っている施設 ・かつらレンタル ・ゲルソン療法の野菜ジュースの作り方 ・心療内科と神経内科はどう違うのか ・病院側の対応に不満、カルテは見せてもらえるのか ・研修会に使用したいのでパンフレットを送って欲しい ・(当窓口利用者が亡くなり)お世話になりましたと挨拶に訪れる<遺族ケア></p>

3. 講演会等の開催

(1)テーマ「宮城県がん在宅療養支援センター」

開催日：7/24

場 所：古川民主病院

対 象：宮城県訪問看護ステーション連絡協議会

(2)テーマ「緩和ケア」

開催日：1/5

場 所：対がん協会 多目的ホール

対 象：宮城県対がん協会看護課

4. 地域連携支援

- ・医療機関の相談支援センターや医療連携室、訪問看護ステーション連絡協議会へ訪問し、当事業の紹介と共に、担当者間との情報交換を行う

(1)会議・研修会等への参加

①「在宅緩和ケア対策推進事業に係る看護連携会議(9/14、塩釜保健所)」<谷川、田村>

②「相談員研修会及び意見交換会(2/7、宮城県本町分庁舎)」<谷川、田村>

(2)訪問実績

①がん拠点病院 5ヶ所

②病院 11ヶ所

③診療所 2ヶ所

④包括支援センター 1ヶ所

(3)病院、施設訪問による担当者からの情報内容

- ・24時間体制で対応してくれる往診医が足りない。開業医の底上げを願う。
- ・薬剤師、訪問看護師、ケアマネ、介護ヘルパーなどのレベルアップが必要。
- ・医療費が支払えない患者が多い。病院での持ち出しには限界がある。国や県として助成して欲しい。
- ・緩和ケア病棟の待ち時間が長い。
- ・外科チームで告知から在宅期を含む終末期までの緩和ケアを統括的に実践中。
- ・来年度から地域連携パスの活用を予定している。
- ・一般市民向けの公開講座を予定している。
- ・院内にかかりつけ医の一覧表を公開したいと思っている。
- ・医療依存度の高い患者は、在宅医の受け入れが困難である。
- ・認知症、合併症のある患者の受け入れ先を探すのが大変。
- ・最近では、地域の在宅医が動いてくれるようになった。
- ・後方支援を行うことで、良いタイミングで在宅医とバトンタッチ出来るようになってきている。
- ・北診ネットの連携で対応している。
- ・リンパ浮腫に対する患者のニーズは高いものの、それに応じる医療従事者の関心・知識・技術が伴っていない。

宮城県がん総合支援センター
事業報告
(平成23年度)

平成23年度 宮城県がん総合支援センター事業報告

事業項目	活動内容
1. 情報収集・提供 (1) ホームページ開設 (2) パンフレット等の作成・配布 (3) 新聞広告・広報誌掲載 〈研修〉	<ul style="list-style-type: none"> ・対がん協会・県のホームページへの掲載 ・パンフレット作成(10,000部) 4,000部配布 ・地域関係機関への配布 ・各種研修会、集会への配布 ・河北新報、県政だより、対がん協会広報誌「ともしび」 ・相談員の質の向上と情報収集 <ul style="list-style-type: none"> * 国立がん研究センター研修会への参加 5/17～20 (in東京) {テーマ: 相談支援センター相談員基礎研修(1)(2)} * 日本緩和医療学会学術集会への参加 7/29～30 (in札幌) {テーマ: 『いのちをささえ、いのちをつないで、緩和ケア』}
2. 相談支援 (1) 患者・家族向け総合相談 (2) 医療従事者向け総合相談	(p.16～17 参照)
3. 患者会支援及び ピアサポーターの育成 (1) 患者会やがんサロンへの 支援 (2) ピアサポーター等の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ホットサロン等への支援 12回(毎月1回 相談員1名参加) ・よろこびの会への支援 5回(よろこびの会茶話会へ相談員派遣) ・講師派遣 ホットサロン 1回 ・県内の患者会に、ピアサポーター育成の周知のための会合参加 2回 「平成23年度宮城県がん患者会意見交換会」 11/21 患者会11団体参加 (相談員1名) 「がん患者・家族の集い」～食事と心の管理の工夫～ 2/25 (相談員2名) ・研修会プログラムの準備 日本対がん協会作成予定の研修プログラムの検討 ・ピアサポーター研修会参加 1/13～14 (in盛岡) 災害とストレスとケアカウンセリング ・対人援助技術演習 (相談員2名)

事業項目	活動内容										
<p>4. 研修会・講演会の開催</p> <p>(1)療養支援サポート研修会の開催</p>	<p>・療養支援サポート研修会開催 (p.18、24～25 参照)</p> <p>日 時:11/26(土) 13:30～16:00</p> <p>場 所:宮城県庁講堂</p> <p>テーマ:宮城における死生観と療養支援を考える</p> <p>基調講演「宮城における死生観」</p> <p>講師 東京大学大学院人文社会系研究科教授 清水哲郎 コーディネーター NPO在宅緩和ケア支援センター『虹』代表 中山康子</p> <p>シンポジスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問診療の立場から 岡部健 「死生をどう考え、どう支援するか」 ・ 訪問看護の立場から 中島ふみ 「独居の末期がん療養者のかかわりを通して」 ・ ケアマネジャーの立場から 古積美栄子 「在宅緩和ケアのマネジメント」 ・ 訪問介護の立場から 末永久美子 「宮城県における死生観と療養支援を考える」 <p>対 象:地域連携支援に携わる職種全般(病院、在宅を含め) 176名参加</p>										
<p>5. 地域連携支援</p> <p>(1)がん患者支援ネットワークの構築</p>	<p>・がん患者受け入れの可否、現状の問題などについて調査及び集計調査実施対象 (p.19～23 参照)</p> <p>在宅療養支援診療所 訪問看護ステーション 地域包括支援センター</p> <p>・関係機関とのネットワーク構築のあり方等の検討 調査結果からの分析</p> <p>・地域包括支援センター活用と連携について検討</p> <p>・講師派遣 青葉ヘルパーステーション「ターミナルケア」 1回 泉第一町内会「日常生活のセルフコントロール」 1回</p>										
<p>6. 運営委員会の開催</p>	<p>・開催回数 2回 (6/14、3/8)</p> <p>・構 成 運営委員</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>がん診療連携拠点病院関係者</td> <td>小笠原鉄郎</td> </tr> <tr> <td>地域がん患者の診察を行なっている医師</td> <td>岡部健</td> </tr> <tr> <td>地域がん患者を支援している看護師</td> <td>中山康子</td> </tr> <tr> <td>ケアマネジャー協会</td> <td>三上雅嗣</td> </tr> <tr> <td>訪問看護ステーション連絡協議会</td> <td>伊藤久美子</td> </tr> </table> <p>事務局 7名 相談員 2名</p>	がん診療連携拠点病院関係者	小笠原鉄郎	地域がん患者の診察を行なっている医師	岡部健	地域がん患者を支援している看護師	中山康子	ケアマネジャー協会	三上雅嗣	訪問看護ステーション連絡協議会	伊藤久美子
がん診療連携拠点病院関係者	小笠原鉄郎										
地域がん患者の診察を行なっている医師	岡部健										
地域がん患者を支援している看護師	中山康子										
ケアマネジャー協会	三上雅嗣										
訪問看護ステーション連絡協議会	伊藤久美子										

【 H23 相談支援実績 】

[月別相談件数]

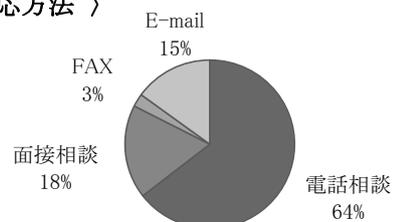
	H23.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H24.1月	2月	3月	H23年度	割合(%)
電話相談	9	16	9	9	10	14	3	18	10	7	14	10	129	64
面接相談	0	4	2	4	6	5	1	4	5	0	3	2	36	18
FAX	0	0	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	5	3
E-mail	4	5	2	7	2	4	1	1	1	3	0	0	30	15
計	13	25	15	21	19	23	5	24	16	10	17	12	200	100

[年度別相談件数推移]

	H20.3月	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
電話相談	17	45	82	129	129
面接相談	1	19	14	17	36
その他 (FAX)	0	0	2	0	5
(E-mail)				11	30
合計	18	64	98	157	200
相談窓口開設場所	県立がんセンター	県立がんセンター	県立がんセンター	対がん協会	対がん協会

*平成20年3月より開設

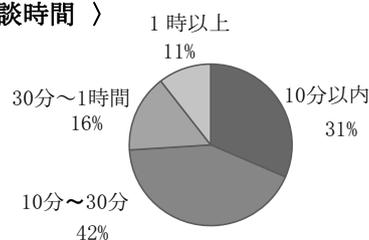
〈 対応方法 〉



[相談時間]

	件数	割合(%)
10分以内	63	31
10分～30分	85	42
30分～1時間	31	16
1時間以上	21	11
計	200	100

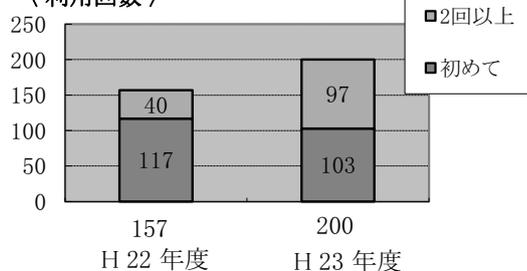
〈 相談時間 〉



[利用回数]

	H 22 年度		H 23 年度	
総数	157	割合(%)	200	割合(%)
初めて	117	75	103	52
2回以上	40	25	97	48

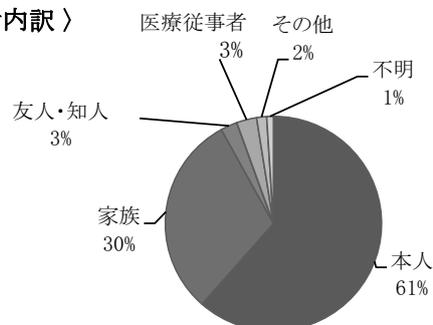
〈 利用回数 〉



[相談者内訳]

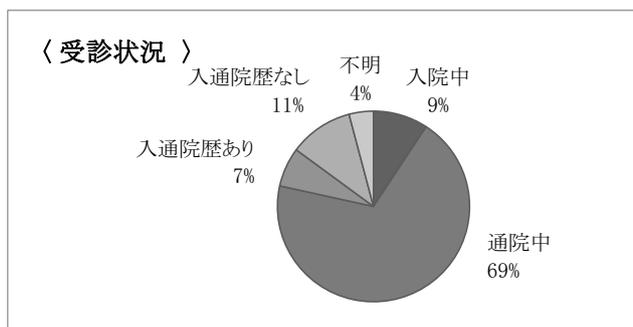
	件数	割合(%)
本人	123	61
家族	61	30
友人・知人	5	3
一般	0	0
医療従事者	6	3
その他	3	2
不明	2	1
計	200	100

〈 相談者内訳 〉



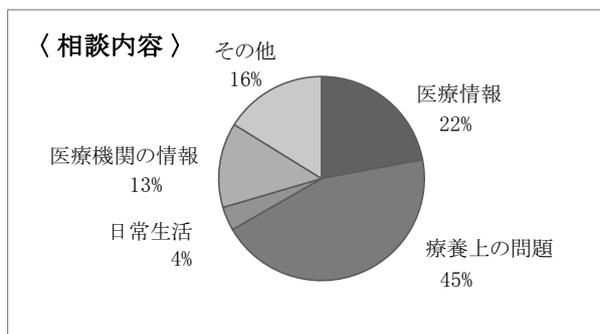
〔受診状況〕

	件数	割合(%)
入院中	18	9
通院中	135	69
入通院歴あり(がんによる)	13	7
入通院歴なし	21	11
不明	8	4
計	195	100



〔相談内容別件数(複数計上)〕

相談内容カテゴリー	件数	割合(%)
医療情報	82	22
療養上の問題	166	45
日常生活	14	4
医療機関の情報	50	13
その他	60	16
計	372	100



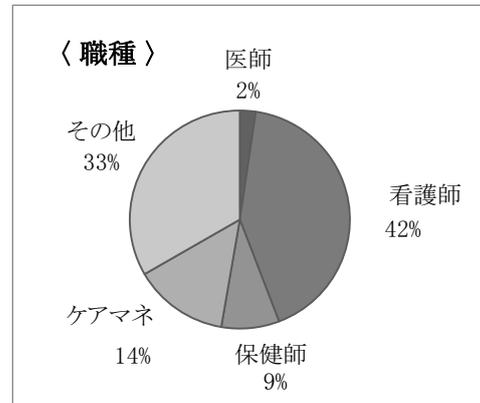
相談内容分類	相談例(抜粋)
医療情報 治療・診断・副作用	・治療方針について判断をせまられているので、意見が欲しい ・検査結果の意味することを教えて欲しい ・免疫療法について知りたい ・大腸がんの一般的情報を教えて欲しい ・直腸カルチノイドについて知りたい ・腫瘍マーカーが上昇しているが治療をしてもらえないので、どこかを紹介して欲しい ・慢性白血病で治療をした方がいいのか聞きたい ・悪性リンパ腫で経過観察中だが、このまま放っておいてよいのか ・術後の補助療法(放射線治療、抗がん剤治療、ホルモン療法)について迷っている ・抗がん剤の副作用(下肢のしびれ、口内炎)で困っている ・麻薬と消炎鎮痛剤の違いは？
療養上の問題 精神面 在宅医療、訪問看護 食事・栄養 患者・家族、 医療者との関係	・急激な状態変化に対する不安が大きい ・終末期の患者にどう接したらよいかわからない ・主治医との関係に不満があり、今までの状況やこれからの治療に納得できない ・在宅療養への準備について教えて欲しい ・県外の患者を仙台に数日間滞在させたいが、そのための医療処置をどうしたらよいか ・何を食べても味がしない ・疼痛・排便コントロールがうまくいかない ・別の相談窓口相談したが、納得した対応してもらえなかった
日常生活 経済面 社会生活	・震災による治療中断や生活全般の不安 ・医療費について知りたい ・傷病手当金が中止されることに納得がいけない ・家族関係がうまくいかない
医療機関の情報 病院の情報 緩和ケア セカンドオピニオン	・緩和ケアについて知りたい ・セカンドオピニオンを受けたい ・免疫療法を行っている県内の施設を教えて欲しい ・乳房にしこりと痛みがあるので、検査をしてもらえるところが知りたい ・下血をしたので今日すぐに検査を受けられる所はないか ・ピロリ菌について教えて欲しい
その他 患者会 各機関へ情報提供	・自分は抗がん剤の副作用が強いが、他の人はどうなのか話を聞いてみたい ・同じ病気の人と話がしたい ・地方から仙台の病院に夫を入院させるために、自分が泊まれる宿泊施設を紹介して欲しい ・夫を亡くした際の医療不信が強く、裁判を起こしたいと思っている ・患者会を立ち上げたいので情報が欲しい ・医療用かつらについて知りたい ・訪問看護を進める上での調整(包括、ケアマネ) ・広報誌に載せるための情報が欲しい(地域保健師) ・逝去の報告

【療養支援サポート研修会の報告】

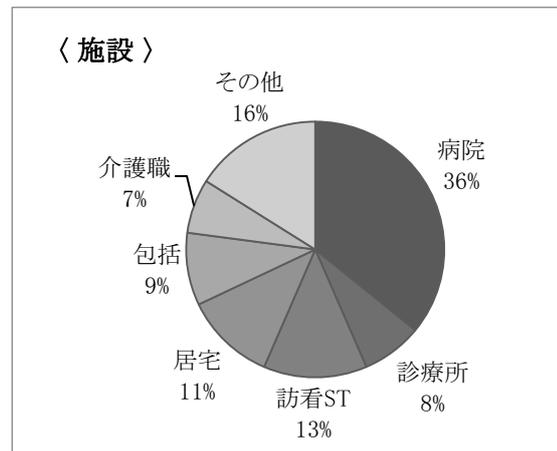
開催日 : 平成23年11月26日
 場所 : 宮城県庁 講堂
 テーマ : 宮城における死生観と療養支援を考える
 対象者 : 地域連携支援に携わる職種全般(病院、在宅を含め)
 参加者 : 176名

アンケート集計
 <回答者数> 127名 (回収率72%)

	実数	割合(%)
医師	3	2
看護師	54	42
保健師	11	9
ケアマネ	18	14
その他	43	33



	実数	割合(%)
病院	47	36
診療所	10	8
訪看ST	17	13
居宅	15	11
包括	12	9
介護職	9	7
その他	21	16



〈結果〉講演、シンポジウムそれぞれについて、全体を通しての感想としても「よかった」「まあよかった」を合わせ、全てにおいて8割以上の参加者よりよかったとの評価が得られた。

〈考察〉参加者からは高評価を得られたが、病院関係者が1/3を占めており、地域を支える職種の参加が少なかったのが残念である。今後、医療がますます地域に移っていく中、地域を支える職種の知識向上、連携が期待されるため、これらの職種の参加者が増えるような研修会の企画が必要である。

【在宅療養支援に関するアンケート調査報告】

実施期間：平成23年9月～10月
 対象：在宅療養支援診療所
 訪問看護ステーション
 地域包括支援センター

回収結果	配布数	回収数	回収率(%)
診療所	113	67	59.2
訪看ST	96	66	68.8
包括	107	58	54.2
合計	316	191	60.4

結果配布（公表可のみ、県保健福祉部長名にて配布）
 各がん診療連携拠点病院
 各市町村
 各保健福祉事業所

(1) 当支援センター認知度

	回収数	認知	未認知	未記入	認知度(%)
診療所	(67)	23	42	2	34.3
訪看ST	(66)	42	23	1	63.6
包括	(58)	25	32	1	43.1
合計	(191)	90	97	4	47.1

結果：訪問看護ステーションでの認知度は2/3程度と高かったが、在宅療養診療所での認知度が1/3程度と低い。地域包括支援センターには、周知活動を行なっていなかったが、半数近く認知されていた。名称変更による混乱もあったと考えられる。（自由記載より）

(2) 在宅療養支援推進にあたっての意見(自由記載)

<在宅療養支援診療所>

- | | |
|----|--|
| 連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門病院との連携体制が必要 ・ 在宅支援診療所ネットワーク作り ・ 訪問医と訪問看護師の連携が密でなければならない ・ がん疼痛等に対する相談窓口(直通電話)があるといい ・ 病院医師と在宅医師との連携がスムーズで、病状や療法についてディスカッションできる |
| 研修 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅療養支援診療所としてスキルアップ ・ 看護師の知識技術のレベルが標準化 |
| 体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・ がん診療連携拠点病院の対応について
24時間の対応
緊急時や症状コントロールが困難な時の後方ベット確保 ・ 診療は頻回となるため、診療所から近い地域のみをしたい |
| 啓発 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院加療を行っている医師への在宅緩和治療の存在について啓蒙 ・ がん患者の在宅療養の仕組み、制度がまだまだ広く認知されていない ・ がん患者およびその家族への、早い段階での啓蒙 |

<訪問看護ステーション>

- 連携
- ・ 現実には退院間近のことが多いので、外来通院中、入院中、早めに関わりを持ち、在宅につなげることが理想
 - ・ 病院各々の在宅支援連携部との連絡・連携が密でスピーディーでない
 - ・ 退院時、きちんとした依頼内容、予後を伝えて欲しい
 - ・ 家に帰るタイミングや機会そのものを逃していることが多い
 - ・ 相談できる所があるといい 患者さん、家族、スタッフetc
- 研修
- ・ 在宅ターミナルに関する研修の機会
(特に新しい薬や治療法に関して)
- 体制
- ・ 往診をしてくださる医師、麻薬を処方できる医師がたくさんいれば、もっとスムーズに訪問が可能になる
 - ・ 市町村保健所などとの関わりが必要
 - ・ デイサービス、ショートステイが活用できると助かる
 - ・ ホームドクター(往診可の)を確保
- 啓発
- ・ 患者家族へのムンテラがきちんとされていない
 - ・ 「何かあったらいつでもすぐに来なさい」と言う方は簡単ですが、緊急時に連れて行くには仙台は遠いなあといつも感じます(登米市)
 - ・ 在宅における緩和ケアについて、病院側の医師、看護師がQOLを尊重した医療であることを理解して欲しい

<地域包括支援センター>

- 保険制度
- ・ 介護保険申請から認定結果までについて、早めの対応をしていただきたい
 - ・ 介護保険が病状と一致しない事が多い
 - ・ 認定が軽くなるケースが多い
 - ・ ターミナルの人のみ福祉用具(ベットやエアマットなど)も医療保険で、医師の指示で使えるといい
 - ・ 早い段階から介護保険の利用についてアドバイスしていただきたい
- 連携
- ・ 近医への紹介・連携により、安心して医療を受けられるような資源の増加が必要
 - ・ どの病院であっても支援体制が整っていることを望む
 - ・ 患者の症状と進行状況などの情報不足が多い
 - ・ カンファレンスの時に医療用語など分かりやすく説明してもらえると助かる
 - ・ 医療保険と介護保険の調整について病院と包括と訪看とが連携してスムーズにサービスを行なっていく必要がある
 - ・ その個人に対応した方法ではなく、すべて事業所中心のケアになりがちというような情報があります
 - ・ 一つの事業所で閉ざされたケアをするより、多くの医師やナースステーション、ケアマネで総合的に満足感が残る体制にしていかなければならない
- 体制
- ・ 24時間サポートできる体制が必要ではないか
 - ・ 病状悪化時の受け入れ病院の確保
 - ・ 医師の配置など、地域格差の是正
 - ・ 看取りのできる施設が必要
 - ・ 地域によって社会資源の格差がある
- 啓発
- ・ 入院中に当事者がイメージできるような働きかけを頂けると対応しやすい
 - ・ 入院中・通院の方に対して在宅生活に向けての支援をもう少し手厚くして欲しい

在宅療養支援に関するアンケート調査票(在宅療養支援診療所版)

(2) 平成22年1月から平成22年12月の間で訪問診療・往診をしたがん患者さんについてお伺いします。

1) 訪問診療を行ったがん患者数(実数) ()人

2) そのうち在宅で看取った患者数 ()人

(3) 訪問診療及び往診が実施可能な地域を記載してください。(市町村、地域単位、移動時間等)

{ }

3. がん患者さんの在宅療養を支援するうえで、連携をとっている関係機関はありますか。よろしければ、連携をとっている主な関係機関についてお知らせください。

区分	関係機関名
病院・診療所	
訪問看護ステーション	
居宅介護支援事業所	
薬局	

4. がん患者の在宅療養支援に関する貴医療機関の担当窓口と担当者名を教えてください。

{ }

5. 今回うかがった内容を県内保健所、市町村、がん診療を行っている医療機関等に情報提供することは可能ですか。

可能である

一部可能である(可能な項目の質問番号をお書きください。)

{ }

不可能である

6. 宮城県がん総合支援センターについて、ご存知ですか？

知っている

知らない

7. がん患者に対する在宅療養支援推進にあたってのご意見があればご記入ください。

<協力ありがとうございます。 >宮城県がん総合支援センター>

在宅療養支援に関するアンケート調査票

医療機関名 ()

回答者 () 記入日 平成 年 月 日

* 場合によっては、回答内容について問い合わせの電話を差し上げることがありますので、回答者のお名前を記載できると幸いです。

1. 貴医療機関の状況についてご記入ください。

所在地	〒
電話番号	FAX番号
メールアドレス	ホームページ
診療日・時間	休診日
麻薬管理	有 ・ 無

2. がん患者に対する訪問診療の実施についてお伺いします。
該当する項目の□にレ印をお付けください。

(1) がん患者の訪問診療・往診は可能ですか。

①可能である

②かかりつけの患者については可能

③患者の状態によっては可能

④環境が整えば可能

⑤不可である

* ①②③④を回答された方にお伺いします。

- ・ 常時何人くらい可能ですか？ ()人
- ・ 看取りまで可能ですか？ 可能 不可能
- ・ 診療可能ながんについてお伺いします。
- 全てのがんを対象とする。
- 一部のがんであれば可能である。対象となる、がんの種類に○をつけてください。

{ 脳・神経・眼、頭頸部、食道、胃、大腸、肝臓・胆のう・膵臓、肺、
乳、子宮・卵巣、前立腺、腎臓・膀胱、甲状腺、血液・リンパ、骨、
皮膚、中皮腫、軟部腫瘍、原発不明がん、その他() }

* ④を回答された方にお伺いします。どの様な環境が必要と思われますか。(複数可)

- 医療処置に必要な物品の調達ができる薬局がある
- 急変時のためのバッグバンドが確保できる
- 交互支援のための医療者のネットワークがある
- 専門的な知識や最新の情報を得られる勉強会などが定期的にある
- 麻薬を取り扱える
- ケアマネジャー、訪問看護師、ヘルパーなどの連携がスムーズに行える
- その他()

* ⑤を回答された方にお伺いします。
今後、がん患者さんの訪問診療・往診を実施する予定はありますか？

予定がある (いつごろの予定ですか 頃) 予定がない

在宅療養支援に関するアンケート調査票(訪問看護ステーション版)

在宅療養支援に関するアンケート調査票

訪問看護ステーション名 ()
 回答者 () 記入日 平成 年 月 日
 * 場合によっては、回答内容について問い合わせの電話を差し上げることがありますので、回答者のお名前前を預載できるようにお願いします。

1. 貴ステーションの状況についてご記入ください。

所在地			
電話番号	FAX番号		
メールアドレス	ホームページ		
24時間対応体制加算	有・無	重症者管理加算	有・無
24時間連絡体制加算	有・無	夜間対応可能職員数	人
営業時間	休業日		

2. 貴ステーションでの訪問看護提供に関してお伺いします。

該当する項目の□にレ印をお付けください。

- (1) がん患者の訪問看護は可能ですか。
 ①可能である
 ②患者の状態によっては可能
 ③環境を整えば可能
 ④不可である
- * ②③をお答えされた方にお伺いします。
 ・ 常時何人ぐらいのがん患者さんに対応可能ですか。()人
- * ③をお答えされた方にお伺いします。どの様な環境が必要と思われますか。〔複数可〕
 在宅医との連携がスムーズに図れる
 医療知識・技術の充足
 十分な職員の確保
 その他()
- * ④をお答えされた方にお伺いします。
 今後、がん患者さんの訪問看護を実施する予定はありますか？
 予定がある (いつごろの予定ですか) 頃 予定がない
- (2) 医療処置について対応可能な項目を○で囲んでください。
 { 留置カテーテル、胃ろう、経管栄養、在宅酸素、気管カニューレ、
 人工呼吸器、IVH、ストマ、褥瘡、皮下点滴、疼痛緩和(麻薬管理) }
- (3) 患者さんやご家族が希望すれば、在宅での看取りまでの対応は可能ですか。
 可能である 対応できない

(4) 平成22年1月から平成22年12月の間で訪問看護をしたがん患者さんについてお伺いします。

- 1) 訪問看護を行ったがん患者数(実数) ()人
 2) そのうち在宅で見取りを行った患者数 ()人
- (5) がん患者さんの在宅療養を支援するうえで、連携をとっている関係機関はありますか。よろしければ、連携をとっている主な関係機関についてお知らせください。

区分	関係機関の名称
在宅療養支援診療所	
他の訪問看護ステーション	
病院	
薬局	
居宅介護支援事業所	
介護関係事業所	
その他	

(6) 訪問看護が実施可能な地域を記載してください。(市町村、地域単位、地域単位、移動時間等)

{ }

3. 患者さんの在宅療養支援に関する貴ステーションの担当窓口と担当者名を教えてください。

{ }

4. 今回わかかった内容を県内保健所、市町村、がん診療を行っている医療機関等に情報提供することは可能ですか。

- 可能である
 一部可能である(可能な項目の質問番号をお書きください。)
 不可能である

5. 宮城県がん総合支援センターをご存知ですか？

- 知っている
 知らない

6. がん患者に対する在宅療養支援推進にあたってのご意見があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。 <宮城県がん総合支援センター>

在宅療養支援に関するアンケート調査票(地域包括支援センター版)

地域包括支援センター名 ())

回答者 ()) 記入日 平成 年 月 日

* 場合によっては、回答内容について問い合わせの電話を差し上げることもありますので、回答者のお名前を頂戴できると幸いです。

1. 貴地域包括支援センターの状況についてご記入ください。

所在地	〒		
電話番号	FAX番号	ホームページ	
メールアドレス		がんのケアプラン	
対応地域		対応職員	人

2. 貴地域包括支援センターでのケアマネジメントについてお伺いします。
該当する項目の□にレ印をお付けください。

(1) 平成22年1月から平成22年12月の間でがん患者さんのケアプラン作成はありましたか。
 あった
 なかった

(2) (1)であったと回答された方にお伺いします。
 1) それは何件ありましたか。 (件)
 はい いいえ

2) カンファレンスには参加されましたか。 はい いいえ

3) どこからの紹介でしたか？(複数回答可) よろしければ、主な関係機関名をお知らせください。
 利用者・家族 ()
 病院 ()
 診療所(かかりつけ医) ()
 訪問看護ステーション ()
 他の居宅支援事業所 ()

(3) 要支援から要介護となつた方について、連絡をとつた関係機関についてお伺いします。
 どこへ紹介しましたか？(複数回答可) よろしければ、主な関係機関名をお知らせください。
 病院 ()
 診療所(かかりつけ医) ()
 訪問看護ステーション ()
 他の居宅支援事業所 ()

(4) 状態悪化に伴い、移籍したことはありませんか。 あつた方は、どこへ移籍しましたか。
 あつた ()
 なかった

3. 今回りがつた内容を県内保健所、市町村、がん診療を行っている医療機関等に情報提供することは可能ですか。
 可能である
 一部可能である(可能な項目の質問番号をお書きください。)
 不可能である

4. 宮城県がん総合支援センターをご存知ですか？
 知っている
 知らない

5. がん患者に対する在宅療養支援推進にあつたご意見があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。
 <宮城県がん総合支援センター>

地域包括支援センター名 ())

回答者 ()) 記入日 平成 年 月 日

* 場合によっては、回答内容について問い合わせの電話を差し上げることもありますので、回答者のお名前を頂戴できると幸いです。

1. 貴地域包括支援センターの状況についてご記入ください。

所在地	〒		
電話番号	FAX番号	ホームページ	
メールアドレス		がんのケアプラン	
対応地域		対応職員	人

2. 貴地域包括支援センターでのケアマネジメントについてお伺いします。
該当する項目の□にレ印をお付けください。

(1) 平成22年1月から平成22年12月の間でがん患者さんのケアプラン作成はありましたか。
 あつた
 なかった

(2) (1)であったと回答された方にお伺いします。
 1) それは何件ありましたか。 (件)
 はい いいえ

2) カンファレンスには参加されましたか。 はい いいえ

3) どこからの紹介でしたか？(複数回答可) よろしければ、主な関係機関名をお知らせください。
 利用者・家族 ()
 病院 ()
 診療所(かかりつけ医) ()
 訪問看護ステーション ()
 他の居宅支援事業所 ()

(3) 要支援から要介護となつた方について、連絡をとつた関係機関についてお伺いします。
 どこへ紹介しましたか？(複数回答可) よろしければ、主な関係機関名をお知らせください。
 病院 ()
 診療所(かかりつけ医) ()
 訪問看護ステーション ()
 他の居宅支援事業所 ()

(4) 状態悪化に伴い、移籍したことはありませんか。 あつた方は、どこへ移籍しましたか。
 あつた ()
 なかった

3. 今回りがつた内容を県内保健所、市町村、がん診療を行っている医療機関等に情報提供することは可能ですか。
 可能である
 一部可能である(可能な項目の質問番号をお書きください。)
 不可能である

4. 宮城県がん総合支援センターをご存知ですか？
 知っている
 知らない

5. がん患者に対する在宅療養支援推進にあつたご意見があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。
 <宮城県がん総合支援センター>

宮城県がん総合支援センター
平成 23 年度療養支援サポート研修会

「宮城における死生観と
療養支援を考える」

日 時：平成 23 年 11 月 26 日（土） 13：00 受付
13：30 開会
場 所：宮城県庁 2 階講堂
参加費：無料（200 名）

<基調講演> 講師 清水 哲郎 先生
東京大学大学院人文社会系研究科教授

清水哲郎（しみず てつろう）先生



1947 年生まれ、東京大学理学部天文学科卒、東京都立大学博士課程修了。北海道大学助教授、東北大学教授などを経て、2007 年度より現職。

専門は中世哲学（言語と論理の哲学を中心に）、医療現場の哲学、臨床倫理。

著書「医療現場に臨む哲学」「生命と人生の倫理」など。

みやぎ在宅ホスピスケアネットワーク代表、研究プロジェクト《医療システムと倫理》プロジェクトリーダー、東京大学グローバル COE「死生学の展開と組織化」拠点メンバー。

<シンポジウム>

コーディネーター	中山 康子	NPO 法人在宅緩和ケアセンター「虹」
シンポジスト	岡部 健	在宅療養支援診療所 岡部医院
	中島 ふみ	仙台北訪問看護ステーション
	古積美栄子	宮城県ケアマネジャー協会
	末永久美子	宮城県介護福祉士会

※ 裏面申込み用紙に必要事項を記入の上、FAX で申し込んで下さい。受講券をお送りします。（申込み多数の場合は調整させていただきます場合があります）

申込締切日：平成 23 年 10 月 7 日（金）

連絡先：宮城県がん総合支援センター（宮城県対がん協会内）

TEL 022-263-1560 FAX 022-263-1548

研修会風景

＝平成23年11月26日＝

基調講演



講演をする清水哲郎先生



スライド(イザナギ、イザナミの別れ)

シンポジウム



在宅療養について医師、看護師、ケアマネ、ヘルパーそれぞれの立場から討論

宮城県がん総合支援センター
事業報告
(平成24年度)

平成24年度 宮城県がん総合支援センター事業報告

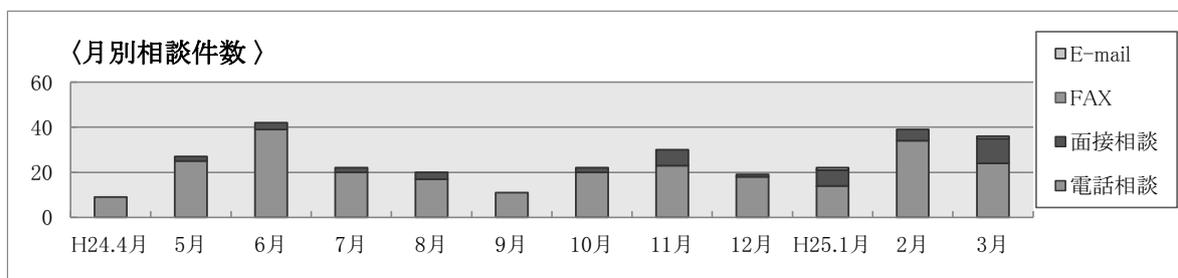
事業項目																	
1. 情報収集・提供 (1) ホームページ開設 (2) パンフレット、ポスター等の作成・配布 (3) 新聞広告・広報誌掲載	H25年3月ホームページ開設 ・対がん協会、県等のホームページとのリンク ・パンフレット作成(10,000部)・配布(8,500部余) ・ポスター(A3版)作成(30枚)掲示 ・地域関係機関への配布 ・各種研修会、集会時、検診時に配布 ・河北新報(6/6、11/28、3/3) 対がん協会広報誌「ともしび」等 *情報提供と実際の相談経路との関係 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>〈相談経路別割合〉</p> <table border="1" style="margin: 0 auto; font-size: small;"> <caption>〈相談経路別割合〉</caption> <tr><th>経路</th><th>割合</th></tr> <tr><td>対がん協会</td><td>32%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>31%</td></tr> <tr><td>新聞</td><td>12%</td></tr> <tr><td>パンフレット</td><td>10%</td></tr> <tr><td>インターネット</td><td>8%</td></tr> <tr><td>関係機関</td><td>5%</td></tr> <tr><td>友人・知人</td><td>2%</td></tr> </table> </div> 〈研修〉 ・相談員の質の向上と情報収集 * 国立がん研修センター研修会参加 8/4～5 (in東京) {テーマ: 相談支援センター相談員基礎研修(3)} * がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定シンポジウム参加 (ピアサポート研修プログラム) 9/30 in 国立がん研究センター(東京) * 第32回宮城県緩和ケア研修会参加 2/10～11 in 東北大学医学部臨床講義棟 * がん相談窓口担当者研修及び意見交換会参加 9/4 (東北大学病院)、12/6 (宮城県立がんセンター)	経路	割合	対がん協会	32%	その他	31%	新聞	12%	パンフレット	10%	インターネット	8%	関係機関	5%	友人・知人	2%
経路	割合																
対がん協会	32%																
その他	31%																
新聞	12%																
パンフレット	10%																
インターネット	8%																
関係機関	5%																
友人・知人	2%																
2. 相談支援 (1) 患者・家族向け総合相談 (2) 医療従事者向け総合相談	<div style="text-align: right;">(p.30～31 参照)</div> ・相談方法 電話相談、面接相談、インターネット、FAX等 ・相談対応 月曜日～金曜日(祝日・休日は除く) 午前9時～午後4時 面接相談は原則予約制 がん相談の経験やスキルのある看護師が対応 出張相談(市町村等) 富谷町、大河原町、気仙沼市																
3. 患者会支援及び ピアサポーターの育成 (1) がんサロンや患者会への支援	・県内の患者会への連携、支援 ホットサロン10回、よろこびの会4回(1回はホットサロンとめと共催) ・講師派遣																

事業項目	
(2)ピアサポーター等育成	<p>・ピアサポーター育成のための研修会開催 (p.32～33 参照) 講師:阿部一彦先生 (東北福祉大学教授) 日時:7/26(木)13:30～15:30 場所:自治会館 テーマ:ピアサポートの目的と役割 対象:県内患者会等 47名参加</p> <p>*ピアサポート研修テキストは、 今年度日本対がん協会にて策定中</p>
4. 研修会・講演会の開催 (1)療養支援サポート研修の開催 (2)講師派遣	<p>・療養支援サポート研修会開催 (p.34～35 参照) 講師:品川博二先生 (日本ケア・カウンセリング協会代表) 日時:11/10(土) 13:00～16:00 場所:東京エレクトロンホール宮城 602会議室 テーマ:ケアする人のところにケアを 講演終了後グループワーク実施 対象:地域連携支援に携わる職種全般(病院、在宅を含め) 72名参加</p> <p>・アフラック1回、大河原地域包括支援センター1回、富谷町健康セミナー1回</p>
5. 地域連携支援 (1)がん患者支援ネットワークの構築	<p>・拠点病院空白医療圏への訪問 みやぎ県南中核病院、大河原包括支援センター 気仙沼市民公開講座への相談員派遣</p> <p>・先進包括的がん医療推進室との連携打ち合わせ会実施 6/6 in 対がん協会(多目的ホール)</p> <p>・平成24年度がん患者・家族支援対策推進事業担当者会議参加 5/15 in 自治会館</p>
6. 運営委員会の開催	<p>・開催回数 2回 (5/21、3/4)</p> <p>・構成 運営委員 地域がん患者の診察を行なっている医師 岡部健 地域がん患者を支援している看護師 中山康子 がん診療連携拠点病院代表 小笠原鉄郎 ケアマネジャー協会代表 三上雅嗣 訪問看護ステーション連絡協議会代表 伊藤久美子 宮城県がん総合支援センター長 渋谷大助</p> <p>事務局 6名 相談員 2名</p> <p>*5/21 東北大学病院がんセンター 先進包括的がん医療推進室 より 宮下、真溪、吉田 3名参加</p>

【 H24 相談支援実績 】

[月別相談件数]

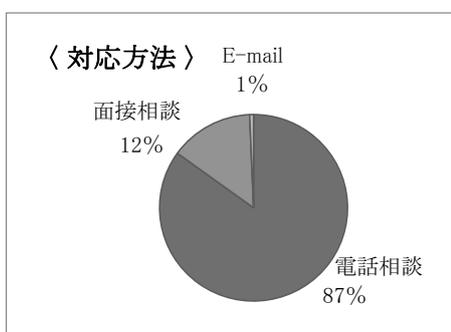
	H24.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H25.1月	2月	3月	H24年度	割合 (%)
電話相談	9	25	39	20	17	11	20	23	18	14	34	24	254	87
面接相談	0	2	3	2	3	0	2	7	1	7	5	11	43	12
FAX	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
E-mail	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	1
計	9	27	42	22	20	11	22	30	19	22	39	36	299	100



*6/6、11/28：河北新報に広告を掲載し、相談件数が増加

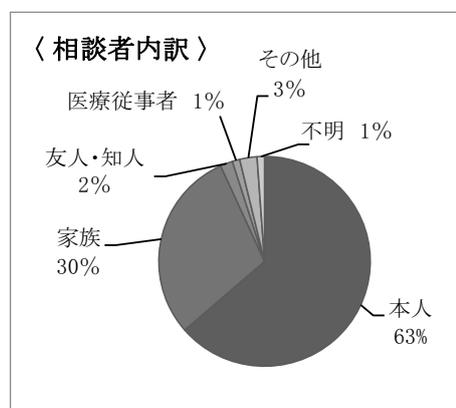
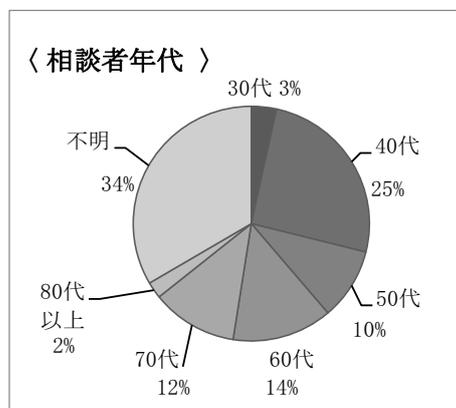
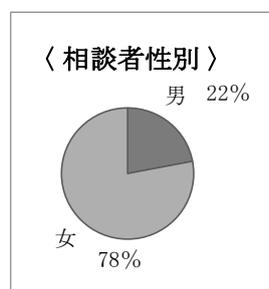
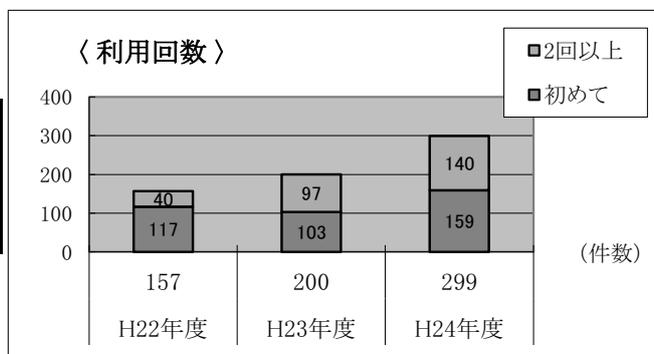
[年度別相談件数推移]

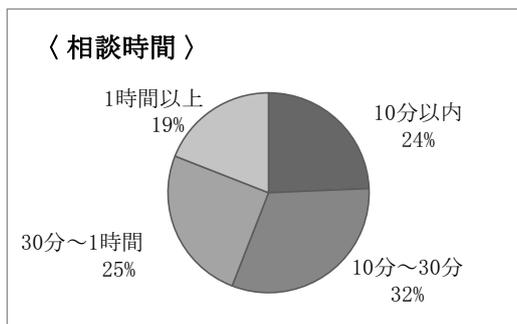
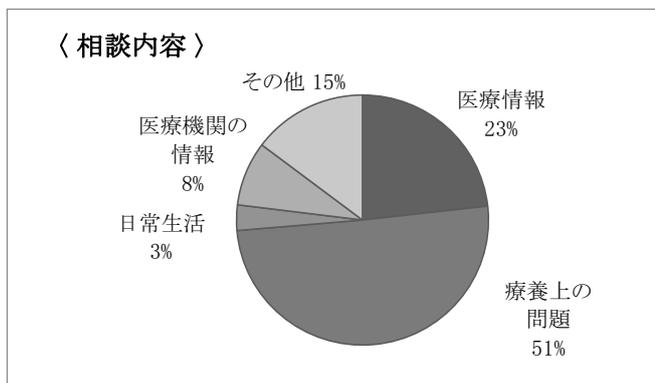
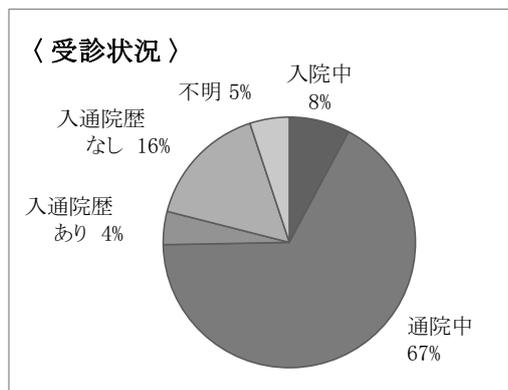
	H22年度	H23年度	H24年度
電話相談	129	129	254
面接相談	17	36	43
FAX	0	5	0
E-mail	11	30	2
合計	157	200	299



[利用回数]

	H 22 年度		H 23 年度		H 24 年度	
総数	157	割合 (%)	200	割合 (%)	299	割合 (%)
初めて	117	75	103	52	159	53
2回以上	40	25	97	48	140	47





相談内容分類	相談例(抜粋)
医療情報 治療・診断・副作用	<ul style="list-style-type: none"> ・胸水による疼痛緩和について ・がんの末期はどうなるのか ・がんの病期や状態について知りたい ・背中や腕の付け根の痛みの緩和、薬を止めましょうといわれ納得がいかない ・追加治療を受けたくない ・手術を受けるか受けないか迷っている ・温熱療法は保険が効くのか ・家族の感染症の感染対策について ・治療方法についての不安 ・子宮がんの予防接種をしていれば検診は不要か ・放射線と抗がん剤が子供に影響が無いのか(患者は同居の祖父) ・手術をするかしないか選択するよういわれ、どうすればよいのか ・症状緩和の対応について在宅医療への不満 ・療養中の性生活の苦痛 ・皮膚がんの検査方法 ・高齢だと検査は出来ないのか ・抗がん剤の副作用について ・アミノインデックスについて
療養上の問題 精神面 在宅医療、訪問看護 食事・栄養 患者・家族、 医療者との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・口内炎の対応方法や口腔ケア ・味覚障害への対応方法 ・症状が悪化すると、娘とのコミュニケーションが上手く出来ない ・夫の病状を踏まえてどのようにしていったらよいか分からない ・体調が不安定で不安が強い ・夜間に突然死にたくなる ・主治医が症状に対してきちんと対応してくれない ・主治医やスタッフが変わり関係がうまく取れない ・苦痛がなく出来るだけ今のまま在宅で見てあげたいのでどの様にすればよいか ・終末期の緩和ケアや介護方法について継続相談 ・療養上の不安についての継続相談 ・抗がん剤の副作用についての不安 ・もう治療法が無いといわれてどう話したらよいか分からない ・グリーフケアの継続 ・がんと精神疾患を持つ介護者の疲れと怒り ・再発の不安 ・治療後の療養について病院との調整するにあたりどう話したらよいか ・うつ症状があり今後の日常生活の過ごし方について
日常生活 経済面 社会生活	<ul style="list-style-type: none"> ・がんと仕事の調整について ・放射線治療費について ・内縁の妻が北海道在住で仙台で治療している夫を支援しているが貯蓄が底を突き、医療費をどうしたらよいか ・母親の介護をする間に子供を預かってくれるところはないか ・病状の進行があり今後の心構えについて教えてもらいたい ・がん検診の費用について知りたい ・傷病手当金について
医療機関の情報 病院の情報 緩和ケア セカンドオピニオン	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の電話番号が知りたい ・お勧めの病院はあるか ・胃がんの放射線治療をしている病院を知りたい ・前立腺の専門病院を知りたい ・抗がん剤治療中でインフルエンザの予防接種の出来る場所を知りたい ・皮膚がんの対応病院はどこか ・がんといわれたが、がんの専門医にかかったほうが良いか ・認知症状のあるがん患者を受け入れてくれるところはないか
その他 患者会 各機関へ情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでもふらっと立ち寄れるところはないか ・患者会を探している ・遺族会はないのか ・患者会への問い合わせ ・当相談支援センターは何をしてくれるところか ・ホットサロンでの人間関係について ・ピアサポーターの研修会の問い合わせ

宮城県がん総合支援センター
平成 24 年度ピアサポーター育成のための研修会

「ピアサポートの目的と役割」

がんのピアサポートとは・・・

「ピア (Peer)」とは仲間、「サポート (Support)」とは支える、援助するということ。ここでは、がん患者さん同士が支えあい、助け合う活動を意味します。

日 時：平成 24 年 7 月 26 日 (木)

場 所：宮城県庁 2 階 (第 2 入札室)

1 3:00 受付

1 3:30 講演

1 4:40 グループワーク

「ピアサポーターとして
学びたいこと」

1 5:30 終了予定

講 師：阿部 一彦 先生 (東北福祉大学教授)

阿部一彦 (あべ かずひこ) 先生
宮城県大崎市 (旧岩出山町) 出身
東北大学大学院歯学研究科博士課程修了
仙台市社会福祉審議委員会委員長
仙台ポリオの会会長

VHO-net(ヘルスケア関連団体ネットワークの会)世話人
ほか

* 参加申込みは同封のハガキに必要事項を記入のうえ郵送して下さい

申込締切日：平成 24 年 7 月 12 日 (木)

問合せ先：宮城県がん総合支援センター

(宮城県対がん協会内)

TEL 022-263-1560

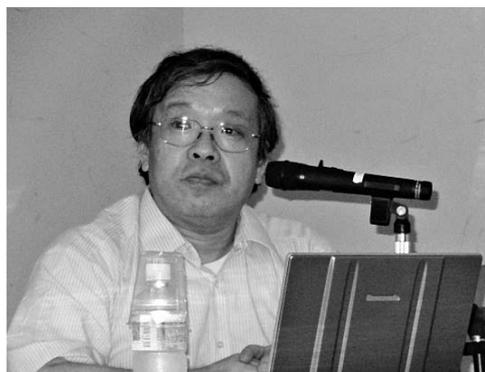
FAX 022-263-1548

後援：東北大学病院がんセンター

先進包括的がん医療推進室

研修会風景

＝平成24年7月26日＝



阿部 一彦 先生



講演「ピアサポーターとは」とのテーマで基本を学んだ



ピアサポーターについてのグループワーク





宮城県がん総合支援センター
平成 24 年度 療養支援サポート研修会

「援助者のための ケアリング」

ケアリングとは・・・

「人を孤独にさせない」働きかけの事であり、相手の
「痛み」を助けながら、同時に自己の痛みを癒すこと

日 時：平成 24 年 11 月 10 日(土) 12:30 受付 13:00 開会
場 所：東京エレクトロンホール宮城（旧県民会館） 16:15 終了

602 中会議室

対 象：がんの療養支援に従事している方 90 名
(ケアマネージャー、看護師、介護職員、連携室相談員 等)

参加費：無料

講演及びグループワーク

「ケアする人のところにケアを」

しながわ ひろじ

講師 品川 博二 先生(臨床心理士)



< 講師プロフィール >

専門は、脳科学の知見に基づく、認知行動療法とナラティブ・アプローチとして「行動形成法」(集団心理療法)の実践研究。日本ケア・カウンセリング協会理事。

現在、東日本大震災の復興に向けて「もりおか復興支援センター」等への心理援助プログラムを実施中。

著作「アマデウス・シンドローム」

「かちん、むかっ、ぐさっ 対人トラブルの心理学」

「こどもを理解する」

「医療スタッフへのカウンセリング」他多数

※別紙申込み用紙に必要事項をご記入の上、FAX または Eメールでお申込みください。後日受講券をお送りします。(申込み多数の場合は調整させていただく場合があります)

申込締切日：平成 24 年 10 月 5 日(金)

申込先：宮城県がん総合支援センター(宮城県対がん協会内)

FAX: 022-263-1548

Eメール: zaitaku-gan@miyagi-taigan.or.jp

お問合せ先 TEL: 022 - 263 - 1560

研修会風景

＝平成24年11月10日＝



講演を熱心に聴講する参加者



品川博二先生



グループワークでケアリングを学ぶ



宮城県がん総合支援センター
事業報告
(平成25年度)

平成25年度 宮城県がん総合支援センター事業報告

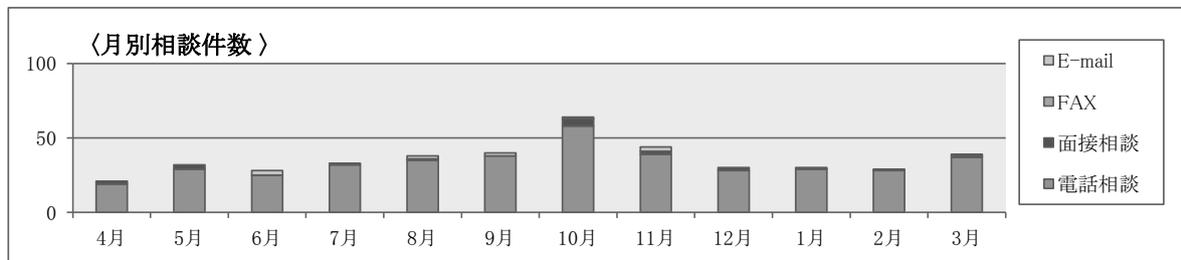
事業項目	活動内容
1. 情報収集・提供 (1) ホームページ運営 (2) パンフレット、ポスター等の作成・配布 (3) 新聞広告・広報誌掲載 (4) 研修会への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの運営・更新 ・パンフレット作成 (1万部) ・パンフレット配布 (7,000部) 宮城県内全市町村 (35ヶ所) 各種研修会、集会、検診時 地域関係機関 (三本松市民センター) ・ポスター掲示 検診時等 ・河北新報、河北Weekly、県政だより、対がん協会広報誌「ともしび」 宮城県内全市町村 (35ヶ所) 広報誌掲載等の依頼 広報誌掲載市町村 (名取、石巻、多賀城、利府、南三陸、大衡、涌谷、加美、色麻、角田、丸森等) ・日本緩和医療学会学術大会 6/21～22 (横浜) ・登米地域在宅緩和ケア普及・啓発市民講座 10/24 (登米) ・地域における情報発信とがん患者支援 11/13 (東京) ・地域みんなでつくる緩和ケア提供体制に関する研修会 1/31 (仙台) ・緩和ケア研修会 2/15～16 (仙台) ・告知から始まる からだとこころのケア 2/20 (名取)
2. 相談支援 (1) 患者・家族向け総合相談 (2) 医療従事者向け総合相談	<div style="text-align: right;">(p.40～42 参照)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・相談方法 電話相談、面接相談、E-mail、FAX ・相談対応 月曜日～金曜日 (祝日・休日は除く) 午前9時～午後4時 面接相談は原則予約制 がん相談の経験やスキルのある看護師が対応 出張相談 (市町村等)
3. 患者会支援及び ピアサポーターの育成 (1) がんサロンや患者会への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の患者会との連携、支援 ホッとサロンin仙台: 10回 よろこびの会 : 3回 ・講師派遣 ホッとサロンin仙台 2回 (11/15、12/20) よろこびの会 3回 (7/3山元支部、12/5栗原市連絡協議会、2/19泉支部)

事業項目	活動内容
(2)ピアサポーター等育成	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会開催のための視察 5/20 福島医科大学訪問 ・ピアサポーター育成のための研修会開催 (p.44～45 参照) 講師:田浜あづさ先生 (仙台青葉学院短期大学准教授) 日時:8/3(土)13:15～15:30 場所:対がん協会 テーマ:「より良いコミュニケーションのために」 対象:これからピアサポーターを始める人 31名参加 ・ピアサポーター研修会支援(主催:東北大学病院がんセンター) 日時・場所:登米保健所 11/15(午後)、11/29(午後) 参加人数:17名(参加修了者15名)
4. 研修会・講演会の開催 (1)療養支援サポート研修会の開催 (2)講師派遣	<ul style="list-style-type: none"> ・療養支援サポート研修会 (p.46～47 参照) 講師:水科江利子先生 (Garage-1 代表) 日時:12/7(土)13:00～16:00 場所:東京エレクトロンホール宮城 テーマ:「心と身体のメンテナンス」 講演と実技 対象:地域連携支援に携わる職種全般 93名参加 ・市町村、事業所等 1/16丸森町(保健推進員対象) ・対がん協会主催公開講座 11/27丸森町、1/28涌谷町 (p.43 参照)
5. 地域連携支援 (1)がん患者支援ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・県がん相談実務者会議への参加 4/24 仙台医療センター 7/19 東北薬科大学病院 10/29 宮城県立がんセンター 2/5 東北労災病院 ・市町村への訪問 (35ヶ所) ・患者会情報交換会(東北大学病院との共催) 6/28 県庁:各患者会より代表者数名参加 3/7 勾当台TPKビル: //
6. 運営委員会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数 2回 (5/31、3/17) ・構成 運営委員 地域がん患者の診察を行なっている医師 川島孝一郎 地域がん患者を支援している看護師 中山康子 がん診療連携拠点病院代表 小笠原鉄郎 ケアマネージャー協会会長 三上雅嗣 訪問看護ステーション連絡協議会会長 伊澤ひとみ 宮城県対がん協会がん検診センター所長 渋谷大助 事務局 6名 相談員 2名

【 H25 相談支援実績 】

〈 月別相談件数 〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H25年度	割合(%)
電話相談	19	29	25	32	35	38	58	39	28	29	28	37	397	92
面接相談	2	3	0	0	1	0	5	2	2	1	1	1	18	4
FAX	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
E-mail	0	0	3	0	2	2	1	3	0	0	0	1	12	3
計	21	32	28	33	38	40	64	44	30	30	29	39	428	100

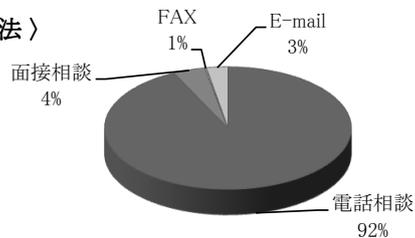


* 6/17、11/12、2/27：河北新報、Weekly掲載
7月以降 市町村広報誌への掲載あり

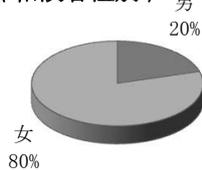
〈 年度別相談件数 〉

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
電話相談	129	129	254	397
面接相談	17	36	43	18
FAX	0	5	0	1
E-mail	11	30	2	12
合計	157	200	299	428

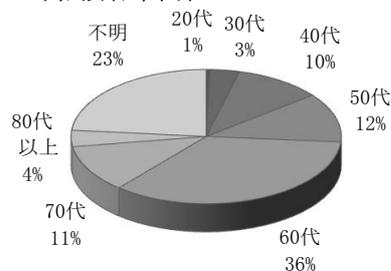
〈 対応方法 〉



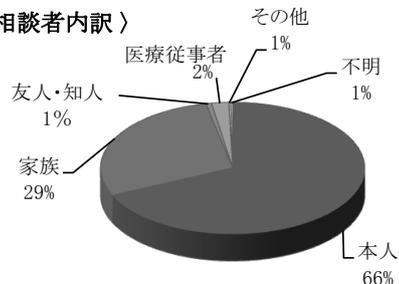
〈 相談者性別 〉



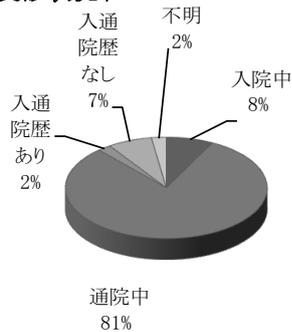
〈 相談者年代 〉



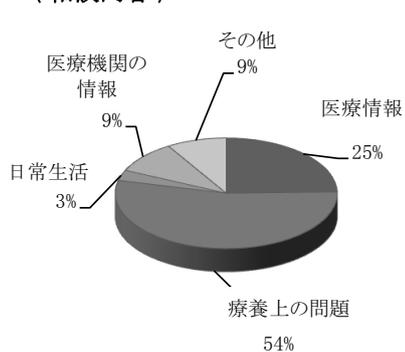
〈 相談者内訳 〉



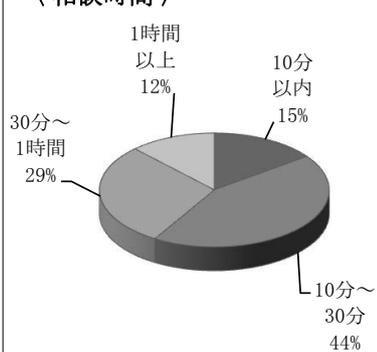
〈 受診状況 〉



〈 相談内容 〉



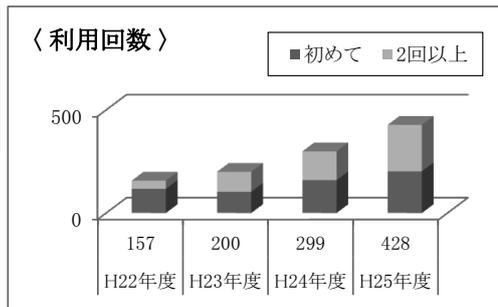
〈 相談時間 〉



〈年度別利用回数〉

	H 22 年度		H 23 年度		H 24 年度		H 25 年度	
総数	157	割合 (%)	200	割合 (%)	299	割合 (%)	428	割合 (%)
初めて	117	75	103	52	159	53	202	47
2回以上	40	25	97	48	140	47	226	53

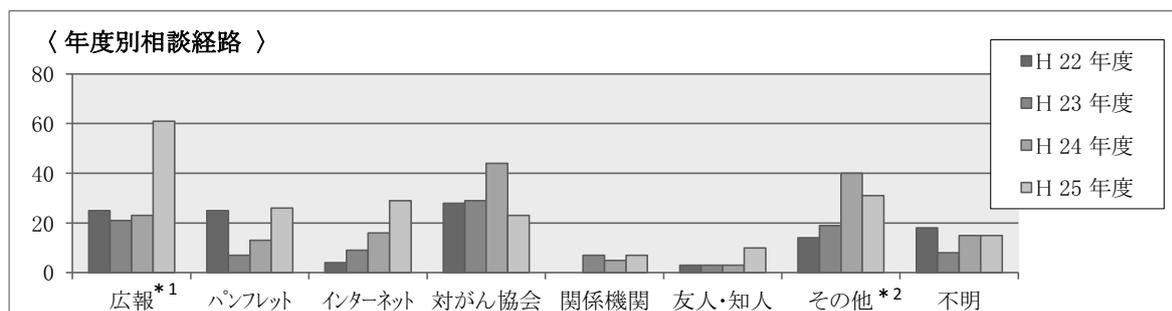
〈利用回数〉



*新規相談者における情報入手経路

〈年度別相談経路〉

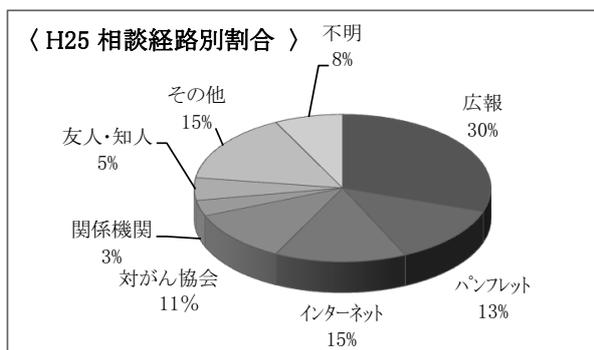
	H 22 年度		H 23 年度		H 24 年度		H 25 年度	
総数	117	割合 (%)	103	割合 (%)	159	割合 (%)	202	割合 (%)
広報	25	21	21	20	23	15	61	30
パンフレット	25	21	7	7	13	8	26	13
インターネット	4	4	9	9	16	10	29	15
対がん協会	28	24	29	28	44	28	23	11
関係機関	0	0	7	7	5	3	7	3
友人・知人	3	3	3	3	3	2	10	5
その他	14	12	19	18	40	25	31	15
不明	18	15	8	8	15	9	15	8



*1 (H22～24) 河北新報、県政だより 他
(H25) 上記に加え、市町村広報誌

*2 (H24) 被災者支援ガイドブック、市役所、退院時サポートキット
相談窓口一覧カード 他

〈H25 相談経路別割合〉



相談内容分類	相談例(抜粋)
医療情報 治療・診断・副作用	<ul style="list-style-type: none"> ・陽子線治療はどこでできるのか ・サイバーナイフを実施している施設を知りたい ・抗がん剤投与時の頭部冷却療法について教えてほしい ・再発における治療方法を教えてほしい ・抗がん剤の副作用で困っている ・リンパ浮腫マッサージを行ってくれるところはないか ・PETとはどんなものか ・検査による被ばくが心配 ・麻薬治療は安全なのか ・食道がん末期の患者に胃-小腸バイパス術をすべきか、またその費用は ・胸膜ブランクと言われたが、大丈夫か ・イレッサを減らしてもよいのか悩んでいる
療養上の問題 精神面 在宅医療、訪問看護 食事・栄養 患者・家族、 医療者との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・治療方針を決める際の迷い ・毎年検診を受けていたのに、ステージⅣで発見されたことが悔しい ・手術を目前に控えて不安 ・手術を待つ間にがんが進行してしまうのではないか ・予定していた抗がん剤治療ができなくて不安 ・治療医が自分の辛さを理解してくれない ・母親の病状変化を直視するのが怖い ・治療をしても改善しないことへの苛立ち、不安 ・頑張れと言われることが辛い ・生きる意味が分からない ・死に直面している患者を支える家族としての辛さ ・何か力になってあげたいが何をすればよいかわからない ・家族間で治療方針が違うがどうしたらよいのか ・病院、主治医との折り合いが悪く、病院を変わりたい ・先生に聞くべき質問項目を教えてほしい ・医師からの説明についての信憑性を知りたい ・仙台で行っている代替療法、自然療法の情報がほしい ・自宅療養するためにはどうしたらよいのか ・食べられないことが不安 ・尿潜血が±と言われ、不安 ・30代の患者に介護ベッドを利用する方法は無いのか
日常生活 経済面 社会生活	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者に対する就職斡旋を行っているところは ・遺産相続について ・年金暮らしのため治療費が心配
医療機関の情報 病院の情報 緩和ケア セカンドオピニオン	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケア病棟について教えてほしい ・セカンドオピニオンをどこで受けたいのか ・肺がん検診を単独で受けられる施設は ・バーチャル大腸内視鏡検診を県内で受けられるか ・カプセル内視鏡で大腸がん検診を受けられる県内の施設は ・受診病院と転院予定病院の情報がほしい
その他 患者会 各機関へ情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・旅立ちの心の準備 ・グリーフケア ・かつらを提供してくれるところは ・患者会の情報を教えてほしい

公開講座

『がんになっても 自分らしく過ごすために』

～ 病気になった時に知っておきたい情報 ～

日時：平成 26年 1月 28日(火)
午後 1:30～3:30 (受付 1:00～)

場所：涌谷町医療福祉センター 研修ホール
涌谷町涌谷字中江南 278

対象：がん患者さん・がん体験者さん
及び一般の方々

参加費：無料
*当日直接会場にお越しください

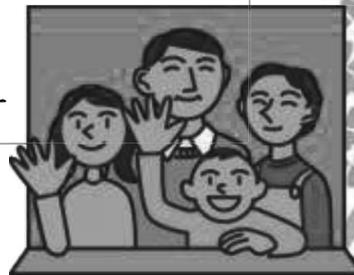
内容

1. 講話 相談員に寄せられた声から
宮城県がん総合支援センター 谷川禎子、田村久美子
2. 体験者の声 患者会の代表者
みやぎよろこびの会会員
3. 語り合い

*終了後、個別相談の時間を設けています

主催 / 宮城県対がん協会
共催 / 涌谷町
みやぎよろこびの会

お問い合わせ先 / 宮城県対がん協会 法人事業課 022-263-1637



宮城県がん総合支援センター
平成 25 年度ピアサポーター育成のための研修会

より良いコミュニケーションのために

がんのピアサポートとは・・・

「ピア（Peer）」とは仲間、「サポート（Support）」とは支える、援助するということ。ここでは、がん患者さん同士が支え合い、助け合う活動を意味します。

日 時：平成 25 年 8 月 3 日（土）
13:15 開会（13:00～受付）
15:30 終了予定

場 所：宮城県対がん協会 1 階 多目的ホール

内 容：ワークショップ（体験型学習）
テーマ「相手の思いを感じとる
コミュニケーション」

講 師：^{たしひ}田 茨 あづさ 先生（仙台青葉学院短期大学准教授）

看護師・保健師
CPCC（米国 CTI 認定プロフェッショナルコーチ）
担当科目：コミュニケーション演習、老年看護学他

* 参加申込みは
裏面の申込用紙に必要事項をご記入のうえ
FAX または 電話 にてお申込みください

申込締切日：平成 25 年 7 月 19 日（金）

問合せ先：宮城県がん総合支援センター
（宮城県対がん協会内）

TEL 022 - 263-1560 FAX 022-263-1548

後援：東北大学病院がんセンター 先進包括的がん医療推進室



研修会風景

＝平成25年8月3日＝



宮城県対がん協会にて開催

体験型学習



田浜あづさ先生



ワークショップでコミュニケーションを学ぶ





宮城県がん総合支援センター
平成25年度 療養支援サポート研修会

「心と体のセルフメンテナンス」

～血液やリンパの流れを良くする筋膜ケア～

みずしな えり こ
講師 水科 江利子 先生



<講師プロフィール>

保育士を経験後、1986年 Garage-1 を創立。
心と体の両面の健康バランスを整えるボディワークと
NLP心理学、マトリックスワーク、コーチングを取り入れた
全身調整プログラムを中心に、地域住民や保健・福祉・
医療関係者への研修、一般企業向けのコミュニケーション、
コーチング講座など、全国各地で講演・講座を開催。
また、震災後被災地で活動する支援者たちのストレスケア
に着目し、セルフケア研修会も行っている。

日時：平成25年12月7日（土）

12:30 開場 13:00 開会～16:00 終了（予定）

場所：東京エレクトロンホール宮城（旧県民会館）
601 大会議室

対象：がんの療養支援に従事している方 100名
（ケアマネジャー、看護師、介護職員、地域連携室相談員等）

参加費：無料

申込締切日：平成25年11月8日（金）

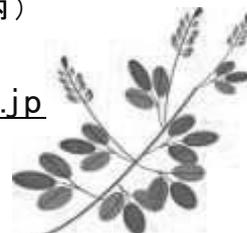
* 裏面申込み用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたはEメールで
お申込みください。後日受講券をお送りします。

申込先：宮城県がん総合支援センター（宮城県対がん協会内）

FAX:022-263-1548

Eメール:zaitaku-gan@miyagi-taigan.or.jp

お問合せ先 TEL: 022-263-1560



研修会風景

＝平成25年12月7日＝



身体を動かしながらの研修会



(心も身体も 軽くなりました…)



宮城県がん総合支援センター
事業報告
(平成26年度)

平成26年度 宮城県がん総合支援センター事業報告

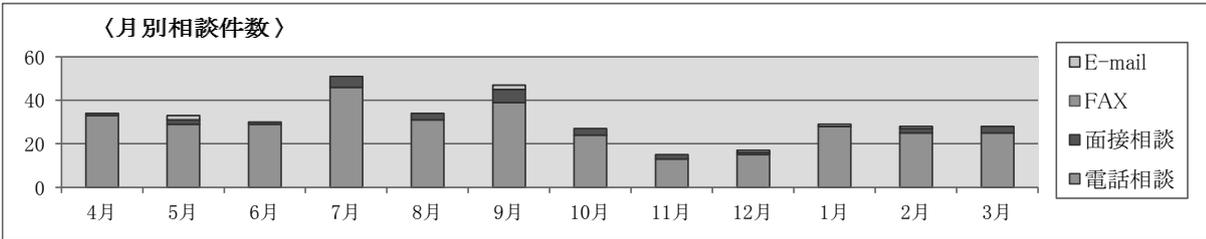
事業項目	活動内容
1. 相談支援 (1) 患者・家族向け総合相談 (2) 医療従事者向け総合相談	(p.52～54 参照)
	<ul style="list-style-type: none"> ・相談方法 電話相談、面接相談、E-mail、FAX ・相談対応 月曜日～金曜日(祝日・休日は除く) 午前9時～午後4時 面接相談は原則予約制 基礎研修(1)(2)(3)を終了した看護師等が対応 (* 国立がん研究センター主催研修)
2. 患者会支援及び ピアサポーターの育成 (1) がんサロンや患者会への 情報提供 (2) 患者会等のネットワーク 構築支援 (3) ピアサポーター等育成	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の患者会との連携、支援 (ホッとサロンin仙台:10回、みやぎよろこびの会:2回) ・講師・ファシリテーター派遣 みやぎよろこびの会(5/21:山元、7/3:丸森) みやぎよろこびの会公開講座(12/8:登米) ひだまりの会(7/30:みやぎ県南中核病院) ・患者交流会への参加 3回 ・リレーフォーライフへの参加働きかけ ・がん患者連絡会等への支援のための情報収集 ・患者会への訪問 『坂ひまわり会』・『坂いちよう会』(坂病院) 『NPOいっぽづつ・・・乳がんになったあなたとともに』(石巻) 『マンマの会パセリ』(石巻) 『ひだまりの会』(みやぎ県南中核病院) ・より良いグループ・サポートを進めるための研修会 (p.56～57 参照) がんサロン編 テキスト・DVD使用 日時 : 10/8(水)、10/15(水) 13:00～16:00 場所 : 県庁会議室 テーマ:「がんサロンでの交流や情報交換をスムーズに進めるために」 対象 : がん患者 及び がんサロンサポートに関わる人 (参加者:18名、修了証発行:17名) ・ピアサポーター育成研修会への支援 (主催:東北大学病院がんセンター) ① 日時 : 7/4(金)、7/18(金) 13:00～16:00 場所 : 東北大学病院 ② 日時 : 12/9(火)、12/16(火) 13:00～16:00 場所 : 石巻合同庁舎
3. 研修会・講演会の開催 (1) 療養支援サポート研修の 開催 (2) 講師派遣	<ul style="list-style-type: none"> ・療養支援サポート研修会 (p.58～59 参照) 講師 : 水科 江利子 先生(Garege-1 代表) 日時 : 11/29(土) 13:00～16:00 場所 : 東京エレクトロンホール宮城 テーマ:「心と体のセルフメンテナンス II」 対象 : 地域連携支援に携わる職種全般 71名参加 ・日本対がん協会主催研修会 (2/3) (p.55 参照)

事業項目	活動内容
<p>4. 情報収集・提供</p> <p>(1) ホームページ運営</p> <p>(2) パンフレット、ポスター等の作成・配布</p> <p>(3) 新聞広告・広報誌掲載</p> <p>(4) 研修会への参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの運営・更新 全市町村 リンクの張り付け依頼 ・パンフレット作成・配布 10,000部 宮城県内全市町村(35ヶ所) 地域コミュニティーセンター 宮城県内の各医師会 各種研修会、集会、検診時 ・ポスター作成 100枚 ・ポスター配布、掲示 40枚 各市町村、検診時等 ・河北新報 (7/8、1/7)、河北Weekly (9/25、2/19) ・対がん協会広報誌「ともしび」 ・全市町村広報誌等への依頼 (利府、丸森、大衡、色麻、塩釜、名取、多賀城、松島、東松島、白石、蔵王 他 掲載) ・県がん相談実務者会議への参加 (4回) ①石巻赤十字病院 (5/14) ②大崎市民病院 (8/29) ③仙台厚生病院 (11/18) ④仙台オープン病院 (2/13) ・第22回 日本ホスピス・在宅ケア研究会 (7/12～13 in 神戸) ・地域相談支援フォーラム「東北ブロック」(7/26) ・がん予防と就労支援セミナー (8/19) ・みんなで考えるがん患者支援のための講演会 (2/18) ・がんの標準治療とがん患者ケアに関する研修会 (3/6)
<p>5. 運営委員会の開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数 2回 (5/19、3/16) ・構成 運営委員 <ul style="list-style-type: none"> 地域がん患者の診察を行なっている医師 川島孝一郎 がん診療連携拠点病院代表 小笠原鉄郎 がん診療連携拠点病院地域連携看護師 五十嵐ひとみ ケアマネージャー協会会長 三上雅嗣 訪問看護ステーション連絡協議会会長 伊澤ひとみ 宮城県対がん協会がん検診センター所長 渋谷大助 事務局 6名 事務局 2名

【 H26 相談支援実績 】

〈 月別相談件数 〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H26年度	割合 (%)
電話相談	33	29	29	46	31	39	24	13	15	28	25	25	337	90
面接相談	1	2	1	5	3	6	3	2	1	0	2	3	29	8
FAX	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
E-mail	0	2	0	0	0	2	0	0	1	1	1	0	7	2
計	34	33	30	51	34	47	27	15	17	29	28	28	373	100



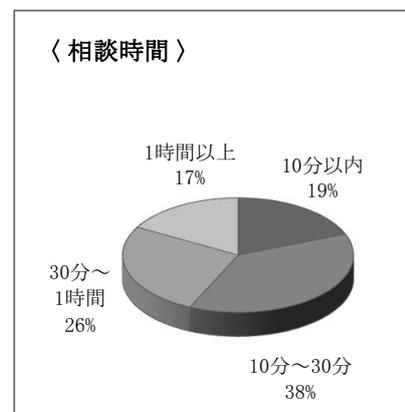
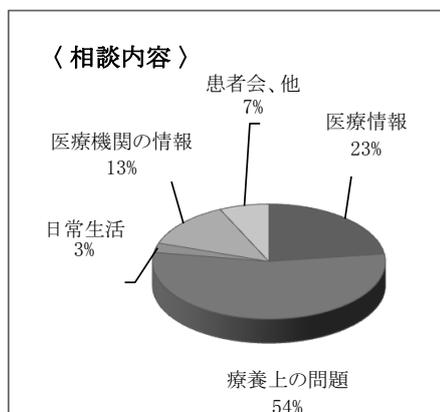
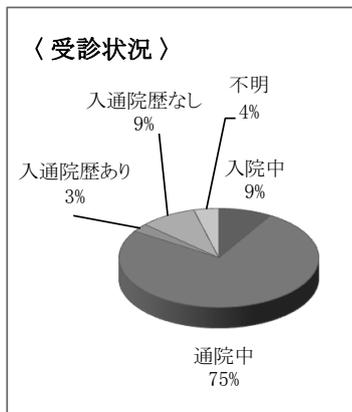
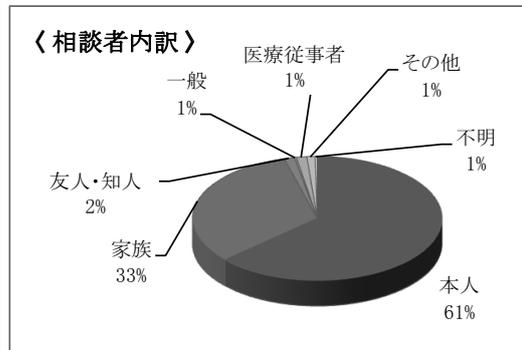
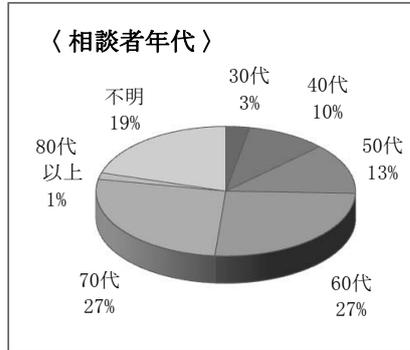
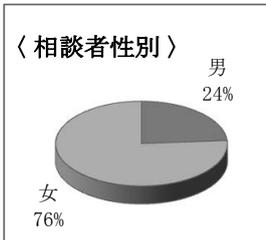
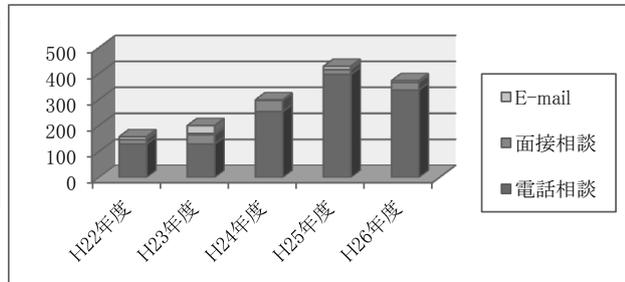
* 7/8、9/25、1/7、2/19：河北新報、Weekly掲載

通年：利府、4・8・12月：松島

6月：丸森・大衡、8月：色麻、10月：塩釜・名取・多賀城・東松島、11月：白石、12月：蔵王

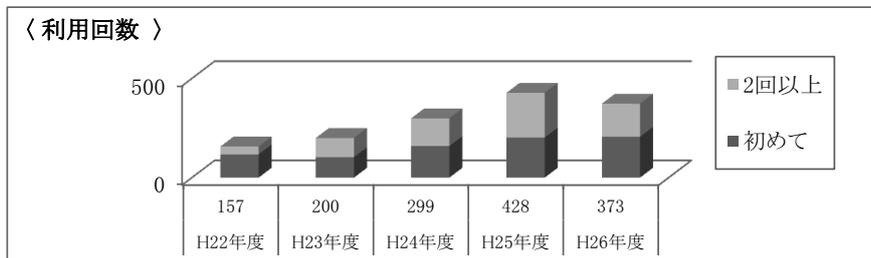
〈 年度別相談件数 〉

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
電話相談	129	129	254	397	337
面接相談	17	36	43	18	29
FAX	0	5	0	1	0
E-mail	11	30	2	12	7
合計	157	200	299	428	373



〈年度別利用回数〉

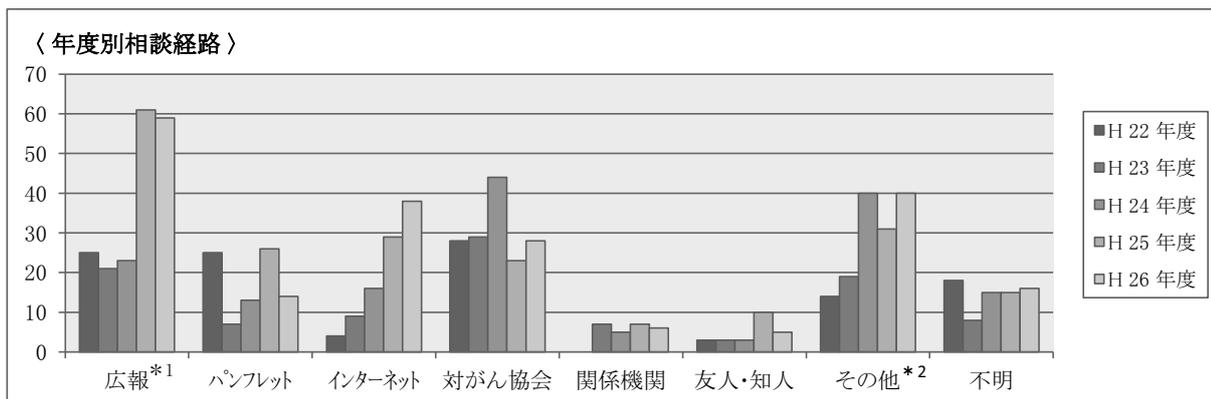
	H 22 年度		H 23 年度		H 24 年度		H 25 年度		H 26 年度	
総数	157	割合 (%)	200	割合 (%)	299	割合 (%)	428	割合 (%)	373	割合 (%)
初めて	117	75	103	52	159	53	202	47	206	55
2回以上	40	25	97	48	140	47	226	53	167	45



*新規相談者における情報入手経路

〈年度別相談経路〉

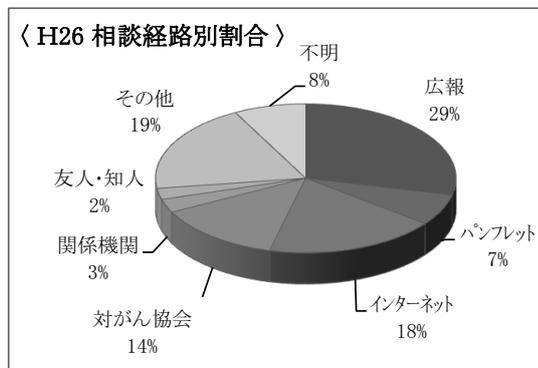
	H 22 年度		H 23 年度		H 24 年度		H 25 年度		H 26 年度	
総数	117	割合 (%)	103	割合 (%)	159	割合 (%)	202	割合 (%)	206	割合 (%)
広報	25	21	21	20	23	15	61	30	59	29
パンフレット	25	21	7	7	13	8	26	13	14	7
インターネット	4	4	9	9	16	10	29	15	38	18
対がん協会	28	24	29	28	44	28	23	11	28	14
関係機関	0	0	7	7	5	3	7	3	6	3
友人・知人	3	3	3	3	3	2	10	5	5	2
その他	14	12	19	18	40	25	31	15	40	19
不明	18	15	8	8	15	9	15	8	16	8



*1 (H22～24) 河北新報、県政だより 他 (H25～26) 上記に加え、市町村広報誌

*2 被災者支援ガイドブック(H24)、市役所、退院時サポートキット 相談窓口一覧カード(H25～)、みやぎがんサポートハンドブック(H26～)他

〈H26 相談経路別割合〉



相談内容分類	相談例（抜粋）
医療情報 治療・診断・副作用	《診断》 ・ボリーブとがんはどう違うのか ・子宮異形成と言われたが、3ヶ月ごとの診察で大丈夫か ・子宮がん検診の結果待ちで、不安 ・長年通院してたのに末期で見つかり、治療法が無いと言われた ・診断結果の意味や予想される治療法を教えて欲しい 《治療》 ・骨転移があり点滴をするらしいが、これは何の点滴か ・抗がん剤はしたくない ・体力が落ちた夫は、手術に耐えられるのか ・ホルモン療法は怖いものなのか ・痛みが増強し、レスキューが効かない ・オキシコンチンとコーヒーを一緒に飲んでもいいか、お酒は大丈夫か 《副作用》 ・抗がん剤の副作用が強いので、止めたい
療養上の問題 精神面 在宅医療、訪問看護 食事・栄養 患者・家族 代替療法 医療者との関係	《精神面：がんの悪化と再発の不安》 ・抗がん剤治療中の夫が衰弱していくばかりなので、治療を止めさせたい ・がんと診断され、何もかもが不安 ・診断を受けたばかりで気持ちが整理できない ・前立腺で待機療法中だが、何もしないことが不安 ・ホルモン療法で体調不良があり中止しているが、その間にがんが大きくなるか ・治療前に色々な情報が入り、気持ちが落ち着かない ・治療が終わったが、病院に通わなくなることで不安 ・体調が悪化していくことの不安、焦り 身の置き場の無い辛さをどうしたらいいか 《主治医との関係》 ・主治医にどう話をしてよいかわからない 何度も質問していいのか ・症状が悪化したか、主治医に話せない ・自分がどんな状況なのかわからない ・不安が強いが、主治医が検査もしてくれないし、話も聞いてくれない ・病院に行くと希望しないのに、治療を勧められて困る 《代替療法》 ・治療法が何もないと言われたが、樹状ワクチン療法はどんなものか ・ゲルソン療法、温熱療法、光線療法、丹羽療法、プロポリス、プロリコ …etc 《在宅療養》 ・在宅か入院かで迷っている ・家で過ごすためにはどうすればいいか 《家族との関係》 ・治療を勧める主治医に従うだけの父親を見ていることが不安 ・母親が悪性リンパ腫の可能性が高いが、自分自身の気持ちの整理がつかない ・家族に重粒子線治療を勧められている ・治療をしないと選択をしたことで、周囲からの対応に困っている ・食欲がなく食べないので、何かを食べさせたい ・何かをしてあげたいが、何をしてよいかわからない 良いアドバイスはないか ・遺伝子検査の結果を小学生の娘にどう伝えたらいいのか
日常生活 経済面 社会生活	《経済面》 ・抗がん剤治療費が高いので困っている ・治療をしたいがお金が無いので、何か助成は受けられないか ・がん患者への救済措置は無いのか ・訪問看護を頼みたいが、高くて頼めない ・店を廃業して治療に専念したいが、家族との話し合いが進まない 《社会生活》 ・身寄りが無いので、最期を過ごす施設を探している ・再就職したいが、就労を斡旋してくるところはないか
医療機関の情報 病院の情報 緩和ケア セカンドオピニオン がん予防・検診	・主治医への不信感があり、セカンドオピニオンを受けたい ・乳がんの手術を受けるのはどこの病院が良いか ・リンパマッサージを受けられる所を知りたい ・緩和ケアとは何か ・人間ドックとがん検診の違いは その費用は
その他 患者会 各機関へ情報提供	《患者会》 ・体験者の話を聞きたい ・患者会に参加したいが不安がある 《グリーンケア》 ・母を亡くして、ぽっかり穴が開いてしまった 《医療関係者への情報提供》 ・かつらについて ・がん教育について

【 告知からグリーフケアまで関わった事例紹介 】

私たち支援センターの特徴は、病院以外の相談窓口ということである。この特色を活かし、がん告知直後から、手術、抗がん剤治療、在宅療養期間を経て、在宅で息を引き取る間際まで、1年7カ月の間（H25.1.16～H26.8.8）、途切れることなく、延べ138回にわたり相談を行った。これは、医療相談だけに留まらず、家族関係や人生の価値観まで深く関わることでできた貴重な症例であった。

「がんと診断された時からの相談支援事業」の一環として日本対がん協会が主催した『みんなで宮城のがん相談を考えよう』の研修会で、当支援センターの紹介とともにこの事例について報告した。

地域統括相談支援センター事業

宮城県がん総合支援センターにおける相談支援

相談員 田村久美子

1

活動内容

- がん相談（電話・面接・FAX・メール他）
平日9～16時：相談員1名体制
*看護師2名による交代制
- 患者会支援
県内患者会への講師やファシリテーターの派遣
ピアサポーター育成研修会開催
- 療養支援者サポート
「心と体のセルフメンテナンス」研修会開催

2

私たち 相談窓口の特色

検診施設

「宮城県対がん協会」内に設置

- ・病院以外の相談窓口
- ・がんになる前から相談できる
- ・病院から在宅まで一貫して相談できる
- ・認知できる機会が少ない
- ・関係職種とのネットワークが弱い

3

広報活動

- 1) ホームページの運営
- 2) パンフレット・ポスター作成・配布
県内市町村(35ヶ所)
医師会、在宅診療所、市民センター
検診会場・研修会会場など
- 3) 新聞広告・広報誌掲載
河北新報、河北Weekly
市町村広報誌

4

がん相談

…私たちが大切にしたいこと

「なぜ？」
「どうして？」を大切に

表出している問題
↳ 隠れている思い
* その思いを言葉にする手伝い

5

Aさん（60代、女性、末期がん）の経過

6

Aさんの相談内容

7

Aさんのサポート図

8

これからの課題

- 周知活動の拡大
- 地域、他施設、多種職

県内の相談窓口との連携
(総合的な相談、専門性の高い相談)

9

*『みんなで宮城のがん相談を考えよう』

H27.2.3 宮城県仙台サンプラザホテルにて開催（詳細は下記参照）

http://www.jcancer.jp/can-navi/wp-content/themes/canNavi_v1.2/images/miyagi_02.pdf

宮城県がん総合支援センター

平成 26 年度 ピアサポーター育成研修会

～がんサロン編～

がんサロンが、がん患者さんやご家族にとって安心して
情報交換や交流ができる場となるよう、学習します。

日 時 <2回シリーズでの開催>

1 回目 10 月 8 日 (水) 13:00～16:00

2 回目 10 月 15 日 (水) 13:00～16:00

(受付開始 12:30～)

場 所：宮城県庁 10 階 1002 会議室

<テーマ>

「よりよいグループサポートを進めるために」

研修テキストとDVDを使用し、講義、
ワークショップ、ロールプレイを行います。

対象者：がんサロンに関わる皆さん
がんサロンに興味をお持ちの方

定 員：20 名（参加費無料）※2日間参加可能な方

* 参加申込みは、裏面の申込用紙に必要事項をご記入のうえ
FAX または電話にてお申込みください。

* 参加者多数の場合は、調整させていただく場合がございますので、
ご了承ください。

申 込 締 切：9 月 10 日 (水)

お問い合わせ：宮城県がん総合支援センター
(宮城県対がん協会内)

TEL 022-263-1560

FAX 022-263-1548



後援：東北大学病院がんセンター 先進包括的がん医療推進室

研修会風景

＝平成26年10月1日、8日＝



谷川相談員の講義



DVD 視聴



ロールプレイでがんサロンを体験



渋谷センター長からの修了証授与



宮城県がん総合支援センター

平成 26 年度 療養支援サポート研修会

好評につき 第二弾！

「心と体のセルフメンテナンス」

みずしな えりこ
講師 水科 江利子 先生



< 講師プロフィール >

保育士を経験後、1986年 Garage-1 を創立。
心と体の両面の健康バランスを整えるボディワークと
NLP 心理学、マトリックスワーク、コーチングを取り入れた
全身調整プログラムを中心に、地域住民や保健・福祉・
医療関係者への研修、一般企業向けのコミュニケーション、
コーチング講座など、全国各地で講演・講座を開催。
また、震災後被災地で活動する支援者たちのストレスケア
に着目し、セルフケア研修会も行っている。

日 時：平成 26 年 11 月 29 日（土）

12:30 開場 13:00 開会～16:00 終了（予定）

場 所：東京エレクトロンホール宮城（旧県民会館）

601 大会議室

対 象：がんの療養支援に従事している方 100 名

（ケアマネジャー、看護師、介護職員、地域連携室相談員 等）

参加費：無料

申込締切日：平成 26 年 11 月 7 日（金）

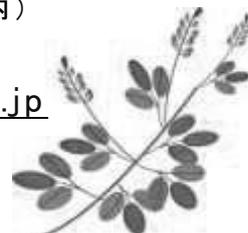
* 裏面申込み用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたはEメールで
お申込みください。後日受講券をお送りします。

申込先：宮城県がん総合支援センター（宮城県対がん協会内）

FAX : 022-263-1548

Eメール: zaitaku-gan@miyagi-taigan.or.jp

お問合せ先 TEL: 022-263-1560



研修会風景

＝平成26年11月29日＝

*前年度好評につき、二年連続で開催



水科 江利子 先生



身体を動かしながらの研修会



宮城県がん総合支援センター
事業報告
(平成27年度)

平成27年度 宮城県がん総合支援センター事業報告

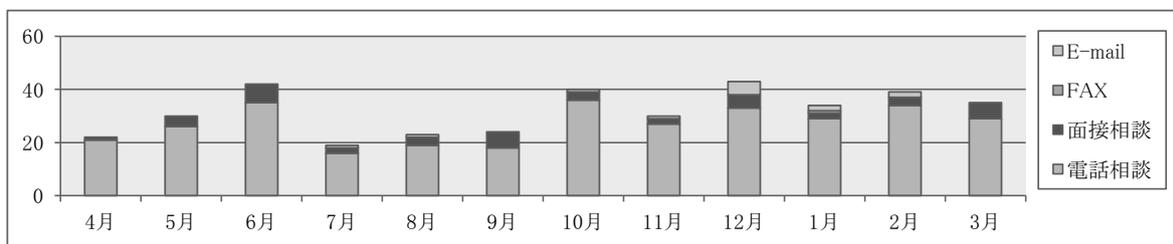
事業項目	活動内容
<p>1. 患者会等の支援及びピアサポーターの育成</p> <p>(1) 患者会等の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県内患者会・サロン情報収集、名簿作成 → 発足式にて資料配布 {基本情報、及び活動内容、メッセージ} ・『がん患者会・サロン ネットワークみやぎ』発足式 (p.70～71 参照) 日時:10/27(火) 14:00～16:00 会場:仙台市情報・産業プラザ(AER6階) 対象:がん患者会・サロンメンバー、がん患者・家族、医療・福祉関係者、行政担当者など 89名参加 <li style="padding-left: 20px;">第一部 ネットワーク発足式 * 21団体で発足 <li style="padding-left: 20px;">第二部 記念講演 「がん患者会がつながりあうことの意味」 グループ・ネクサス・ジャパン理事長 全国がん患者団体連合会理事長 天野慎介氏 ・情報交換会実施 7/16 ネットワーク結成準備会 (対がん協会 : 26名参加) 2/23 患者会交流会 (TKPガーデンシティ仙台勾当台 : 29名参加) ・ネットワークコアメンバー(運営委員)会議開催支援 8/4、9/1、10/13、1/29 <li style="padding-left: 40px;">* 『がん患者会・サロン ネットワークみやぎ』事務局担当 (「東北大学病院がんセンター 先進包括的がん医療推進室」と共同開催)
<p>(2) ピアサポーター育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フォローアップ研修会開催 : [講義、グループワーク] × 2日間 (「東北大学病院がんセンター 先進包括的がん医療推進室」と共同開催) <li style="padding-left: 20px;">会 場: 東北大学病院 臨床中講堂 (p.68～69 参照) <li style="padding-left: 20px;">参加者: 22名 (「ピアサポーター」研修会受講者を対象) ○ 1 日目 7/2(木) 13:30～16:30 緩和ケア <東北大学病院 緩和ケア認定看護師 中條庸子氏> 口腔ケア <東北労災病院 歯科衛生士 佐藤美由紀氏> ○ 2 日目 7/9(木) 13:30～16:30 現在のがん医療 <東北大学病院 地域医療連携センター 森隆弘教授> 就労支援 <東北大学病院 産業カウンセラー 原沙絵氏>
<p>(3) 患者会やがんサロンへの情報提供・講師派遣</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の患者会との連携、支援 (ホッとサロンin仙台:10回、みやぎよろこびの会:2回) ・講師・ファシリテーター派遣 みやぎよろこびの会大会 (10/15:鳴子温泉) 丸森町保健推進員研修会 (12/15:対がん協会) 登米公開講座、交流会 (1/27:中田保健福祉会館) (p.72 参照)

事業項目	活動内容
2. 相談支援 (1) 患者・家族向け総合相談 (2) 医療・福祉従事者向け総合相談	(p.64～67 参照) ・相談方法 電話相談、面接相談、E-mail、FAX ・相談対応 月曜日～金曜日(祝日・休日は除く) 午前9時～午後4時 面接相談は原則予約制 基礎研修(1)(2)(3)を終了した看護師等が対応 (*国立がん研究センター主催研修)
3. 情報収集・提供 (1) ホームページ運営 (2) パンフレット、ポスター等の作成・配布 (3) 新聞広告・広報誌掲載 (4) 研修会への参加	・ホームページの運営・更新 がん相談Q&Aページの更新システム追加(4月～) ・パンフレット配布 仙台市 (5/27) 仙台市地域包括支援センター職員研修会 (6/17:仙台市福祉プラザ) 中山地域包括支援センター 各種研修会、集会、検診時 ・ポスター掲示 検診時等 ・事業説明、パンフレット配布 市町村がん検診事業説明会 東北労災病院緩和ケアイベント ・河北新報、河北Weekly、対がん協会広報誌「ともしび」等 5/30 『げんき倶楽部杜人』 6/8、1/5 河北新報 10/8、2/25 河北Weekly ・県がん相談実務者会議 5/22、11/6、2/5 (県庁) ・県がん相談実務者研修会 5/22、11/6、2/5 (県庁) 6/6 (仙台医療センター) ・日本緩和医療学術大会参加 (6/19～20 in横浜) ・日本ホスピス在宅ケア研究会参加 (8/29～30 in横浜) ・「がんと診断された時からの相談支援事業」シンポジウム (8/26 in東京) ・がん患者の緩和ケアと終末期ケアに関する研修会 (11/27 in東北大学)
4. 運営委員会の開催	・開催回数 2回 (5/27 、 3/7) ・構成 運営委員 地域がん患者の診察を行なっている医師 中井 裕之 がん診療連携拠点病院代表 小笠原鉄郎 がん診療連携拠点病院地域連携看護師 浦山 美輪 ケアマネージャー協会会長 三上 雅嗣 訪問看護ステーション連絡協議会会長 松浦 千春 宮城県対がん協会がん検診センター所長 渋谷 大助 事務局 7名 相談員 2名

【 H27 相談支援実績 】

〈 月別相談件数 〉

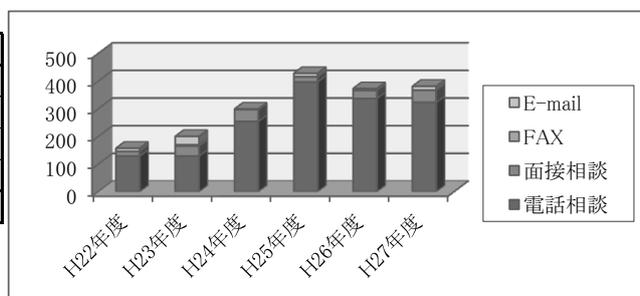
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H27年度	割合 (%)
電話相談	21	26	35	16	19	18	36	27	33	29	34	29	323	84.8
面接相談	1	4	7	2	3	6	3	2	5	2	3	6	44	11.5
FAX	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.3
E-mail	0	0	0	1	1	0	1	1	5	2	2	0	13	3.4
計	22	30	42	19	23	24	40	30	43	34	39	35	381	100.0



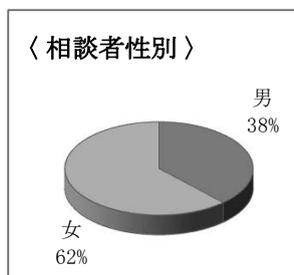
* 6/8、10/8、1/5、2/25：河北新報、Weekly掲載 5/30『げんき倶楽部杜人』
各市町村広報誌掲載
(利府、松島、丸森、大衡、色麻、塩釜、名取、多賀城、東松島、白石、蔵王etc)

〈 年度別相談件数 〉

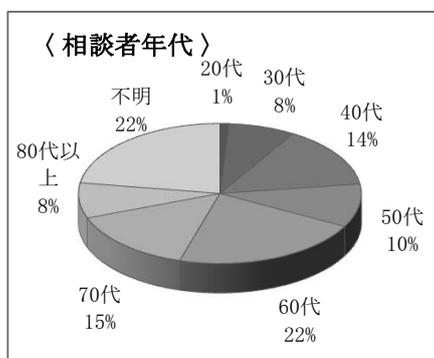
	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
電話相談	129	129	254	397	337	323
面接相談	17	36	43	18	29	44
FAX	0	5	0	1	0	1
E-mail	11	30	2	12	7	13
合計	157	200	299	428	373	381



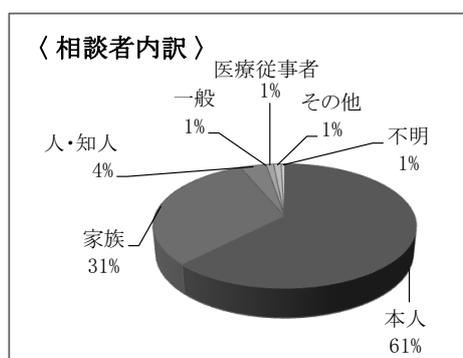
〈 相談者性別 〉



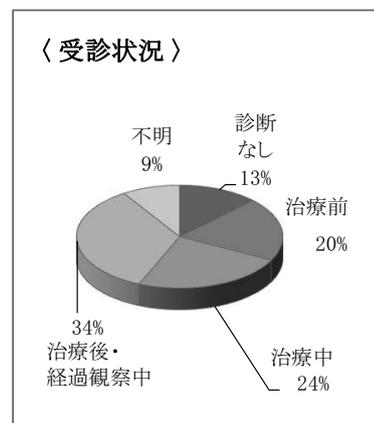
〈 相談者年代 〉



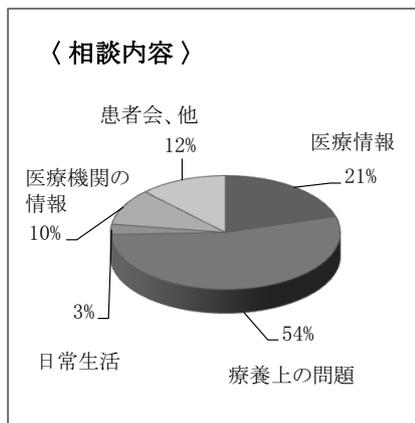
〈 相談者内訳 〉



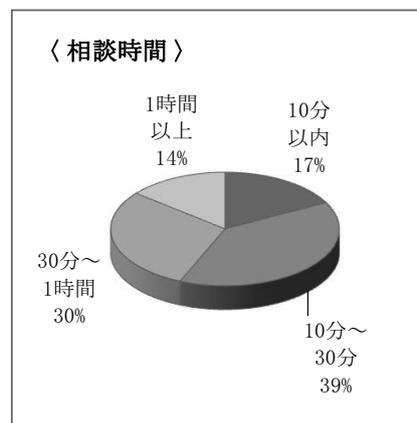
〈 受診状況 〉



〈 相談内容 〉



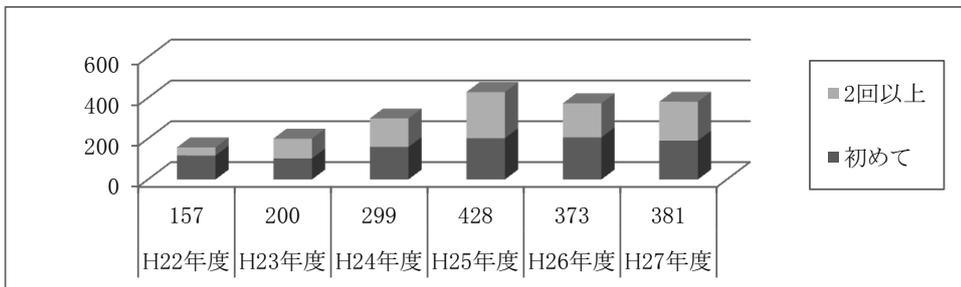
〈 相談時間 〉



〈年度別利用回数〉

	H 22 年度		H 23 年度		H 24 年度		H 25 年度		H 26 年度		H 27 年度	
総数	157	割合 (%)	200	割合 (%)	299	割合 (%)	428	割合 (%)	373	割合 (%)	381	割合 (%)
初めて	117	75	103	52	159	53	202	47	206	55	191	50
2回以上	40	25	97	48	140	47	226	53	167	45	190	50

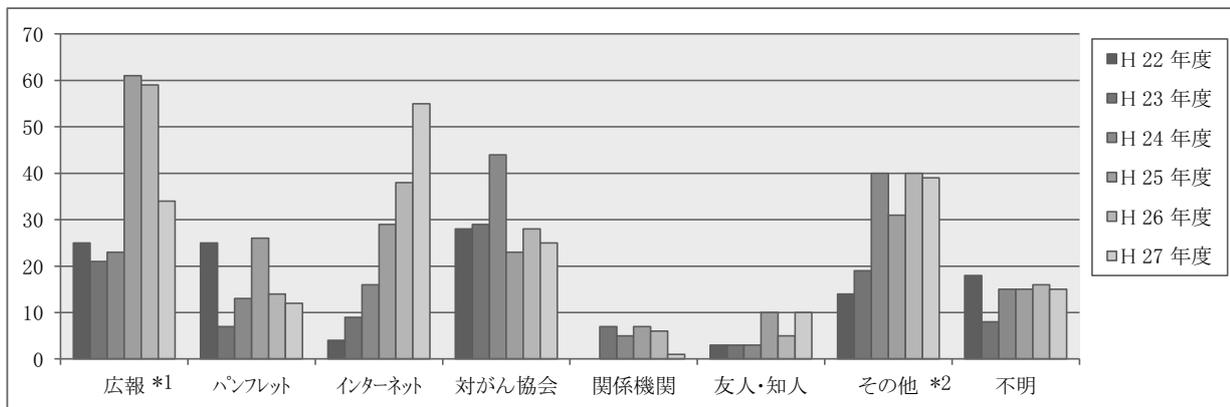
〈利用回数〉



*新規相談者における情報入手経路

〈年度別相談経路〉

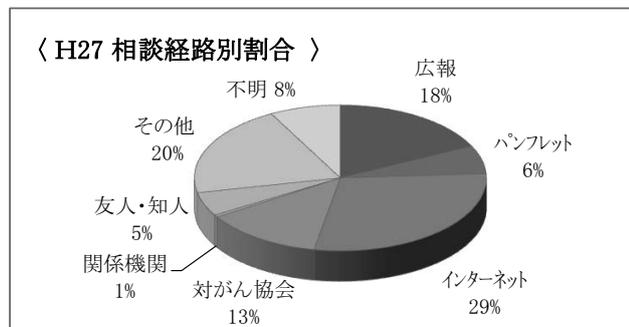
	H 22 年度		H 23 年度		H 24 年度		H 25 年度		H 26 年度		H 27 年度	
総数	117	割合 (%)	103	割合 (%)	159	割合 (%)	202	割合 (%)	206	割合 (%)	191	割合 (%)
広報	25	21	21	20	23	15	61	30	59	29	34	18
パンフレット	25	21	7	7	13	8	26	13	14	7	12	6
インターネット	4	4	9	9	16	10	29	15	38	18	55	29
対がん協会	28	24	29	28	44	28	23	11	28	14	25	13
関係機関	0	0	7	7	5	3	7	3	6	3	1	1
友人・知人	3	3	3	3	3	2	10	5	5	2	10	5
その他	14	12	19	18	40	25	31	15	40	19	39	20
不明	18	15	8	8	15	9	15	8	16	8	15	8



*1 (H22～24) 河北新報、県政だより 他
(H25～27) 上記に加え、市町村広報誌

*2 被災者支援ガイドブック(H24)、退院時サポートキット
相談窓口一覧カード(H25～)、みやぎがんサポートハンドブック(H26～)
がん検診手帳(仙台市、大崎市、美里町他)
県、仙台市、こころの相談室

〈H27 相談経路別割合〉



相談内容分類	相談例 (抜粋)
がん予防・検診	<ul style="list-style-type: none"> ・がん予防について聞きたい ・土・日で肺がんの検査をしているところを知りたい ・前立腺の生検はどこでやってもらえるか ・アミノインデックスはどこでできるか ・ピロリ菌で保険は適応になるのか ・子宮筋腫術後でも、子宮がん検診を受けた方が良いか ・ペースメーカー装着中、がん検診は受けられるか ・MRIとCTの違いは ・がんの早期発見のための検査期間は ・授乳中の胃がんの検診は可能か ・授乳中の胃がん検査時の下剤は何か ・溶連菌感染しているが予防接種や胃内視鏡検査を受けても良いか
診断・治療	病院・医師の選択 <ul style="list-style-type: none"> ・小さい病院で大丈夫か ・臓器治療の病院はどこか ・病理医がいない病院では、術中診断はどうするのか ・乳がん告知後、どこで治療をするのか迷っている ・乳がんの手術数が多いところはどこか ・再建術をどこで受けたいか ・放射線治療で気胸になったが、治療再開してくれるところはないか
	治療法の選択 <ul style="list-style-type: none"> ・抗がん剤を使用したくない ・近藤理論で迷いが出ている ・ホルモン剤の変更で手術はさけられるか ・治療が無い時緩和しかないのか ・リンパ節転移があっても放射線治療は可能か ・自己血輸血を行ったが体調不良、取りやめた方が良いか ・乳がんの手術で全摘か温存か迷っている
	治療に対する不安 <ul style="list-style-type: none"> ・経過観察中の悪化不安 ・治験に関する同意書が理解できない ・これ以上治療が無いと言われたがどうしたら良いか ・手術は怖い ・手術をしたくない ・手術を1か月待たされて悪化しないか ・大腸がん手術で性機能障害が出る確率はどのくらいか
	検査に対する不安 <ul style="list-style-type: none"> ・腫瘍マーカーがさがらない不安 ・検査ばかり受けさせられる不満 ・尿細胞診『5』は何か ・検査期間の延長に対する不安 ・造影剤検査を月2回受けるが大丈夫か ・PETで異常指摘され、精密検査で問題なしとはどういうことか ・乳がんの細胞診に3週間かかるらしいが、もっとはやく結果が出るところはないか
	緩和ケアについて <ul style="list-style-type: none"> ・緩和とは、末期とはどういうことか ・認知症がある場合の緩和ケアはどうすればよいか
	セカンドオピニオン <ul style="list-style-type: none"> ・セカンドオピニオンを受けたいが主治医の気分を害さないか ・乳がんの告知を受けたが、もう一人意見を聞いてみたい
	医師とのコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ・主治医の対応不満 ・上手く主治医と話せない ・主治医の説明が理解できない ・主治医からの説明が不十分 ・主治医と意思疎通ができない ・受診時に主治医に質問する内容について知りたい ・膀胱がん術後前立腺がんの検査を受けたいが主治医が相手にしてくれない
	告知 <ul style="list-style-type: none"> ・医師によって診断の説明の食い違いがある ・本人に告知をすべきか迷っている
	病名 <ul style="list-style-type: none"> ・甲状腺腫瘍はどういうものか ・胃の粘膜下腫瘍とは何か
	その他 <ul style="list-style-type: none"> ・報道された薬について知りたい ・がんはうつるのか ・タンパク質はがんの進行を早めるのか ・免疫力の測定は出来るか ・血便によるがんの可能性 ・内視鏡で肛門がんは分かるのか ・乳房のう胞はどうしたらわかるか
症状・副作用後遺症	抗がん剤の副作用 <ul style="list-style-type: none"> ・抗がん剤使用後の副作用への不安 ・抗がん剤の副作用が強く止めたいが、止めることへの不安 ・抗がん剤で手足のしびれと口腔の痛みがある
	食欲不振 <ul style="list-style-type: none"> ・胃がん術後体重が増えない ・食欲が落ちイライラしている ・食事がとれず体重減少
	痛み <ul style="list-style-type: none"> ・術後の痛み ・モルヒネは怖い薬ではないのか ・モルヒネを使うのは怖い ・老健施設に入所中の骨転移による痛みの対応方法についてどうすれば良いか
	リンパ浮腫 <ul style="list-style-type: none"> ・子宮がん術後のリンパ浮腫になっていないか不安 ・術後下肢が浮腫んでいる
	便秘・下痢・排尿障害 <ul style="list-style-type: none"> ・導尿について教えて欲しい ・頻尿で眠れない
	脱毛 <ul style="list-style-type: none"> ・ウィッグを扱っているところを教えて欲しい ・脱毛によるストレスの発散 ・脱毛の進行不安
	その他 <ul style="list-style-type: none"> ・肺水腫の治療 ・臓器のう胞のがん化の確率 ・症状の変化の不安が大きい ・痛みが他の疾患のためではないか心配 ・卵子冷凍保存について ・インフルエンザワクチンはしても良いか
施設の設備アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・PET実施機関はどこか ・早く手術してくれる病院はないか ・呼吸器科を紹介して欲しい ・施設に対する苦情 ・通院中の病院の対応に不満 ・施設入所中の認知症の人ががんになった時の対応について

相談内容分類		相談例（抜粋）
在宅療養	社会資源の活用	・在宅療養での点滴スタンドはどこで借りられるか
	在宅療養の不安	・退院時の準備不安 ・在宅移行時の在宅での準備はどうしたら良いか ・治療の無い父親を自宅で介護するためにはどうしたらいいか
精神的不安	再発・転移の不安	・再発するかもしれない不安 ・腫瘍マーカーが上昇傾向で不安 ・検査結果を聞くのが怖い ・がんの進行不安 ・転移と再発はどう違うのか ・脂肪肝は肝臓がんになるのか ・身体のちょっとした変化が気になる
	将来に対する漠然とした不安	・がんの告知を受けてとにかく不安 ・異常なしでも悪くなった時のことを考え不安 ・何に対しても前に進めない ・友人の言葉で不安 ・死への漠然とした不安
	精神的動揺	・突然の告知と全身状態の急激な悪化に動揺 ・不安は取れないと言われた ・乳がん罹患への後悔
	落ち込み・抑うつ	・落ち込んだ気持ちをどうしたらよいかわからない ・検査を控え不安
生きがい・価値観		・抱えている思いの表出 ・自分の過去を振り返っての表出 ・心の迷い ・モヤモヤした気持ちの整理をしたい ・家族と上手くいっていないし孤立して将来は施設に入りたい
経済的	がん罹患による負担	・がん治療に関しての助成制度について聞きたい
	医療費	・肺がんの手術費用 ・放射線照射量と保険適応について
就労	復帰・継続への不安	・体調により、仕事復帰への不安 ・職場の人間関係がうまくいかない
社会との関係	友人・知人との対応	・知り合いと顔を合わせたくない ・自分の置かれた辛い立場をわかって欲しい ・失敗することを恐れて行動できない
	患者会	・患者会に参加したいが不安 ・患者会での自分の言動に対しての不安
	ピアサポーター	・ピアとして活動したい ・ピアとして支援できた ・ピアサポート研修について知りたい
家族との関係	配偶者との関係	・妻が関わってくれないストレス ・妻を支えるための不安
	家族全体との関係	・妹ががんで不安、弟の不安を取りたい ・落ち込んでいる時の関わり方 ・術後後遺症が家族として心配 ・見舞いに行きたいが来なくて良いと言われた場合はどうすればよいか ・病気のことがわからず不安 ・家族と上手くいっていない ・娘ががんのことを話してくれず不安 ・パートナーが今どんな状態にあるのか知りたい
	家族間でのストレス	・患者との関わり方がわからない ・治療に苦しむ家族を支えられない ・妻の病状進行が不安 ・病気で閉じこもりがちの姉との関係に悩んでいる
	家族への気付き	・母親が気になり、手術の決断ができない ・父親が治療が無いと言われ悔しい
	家族との意見の不一致	・家族間で治療や終末期の意見不一致による悩み ・積極的治療は無いが、何かあれば転院しても受けさせたい ・緩和ケアのため本人告知を勧められているが、家族は告知に反対
	家族としてのサポート	・夫がステージⅣの肺がんと診断され家族としてどうしたら良いか ・胃がんと診断されたパートナーにどうサポートしたらいいか ・父親の放射線治療に付き添えない、どうすればよいか ・治療をしないと決めているが、これから痛みが出てきたら家族としてどうすればよいか
	グリーフケア	・妻の逝去で心の整理がつかない ・悲しみから立ち直れない ・寂しい
日常生活への影響		・腎臓摘出後の生活習慣で気をつけることは何か ・免疫力の上げ方 ・風邪気味で入浴して良いか ・円形脱毛症による脱毛に関してシャンプーの仕方の相談
その他		・相談員研修についての問い合わせ ・他県から相談事業内容の問い合わせ

がんの患者さん支援のための

ピアサポーター育成研修(ステップアップ研修)

本研修では、現在のがん医療やケアの実際について講義を中心に学習します。

- 日 時 : 平成27年7月2日(木) 13:30~16:30(1回目)
7月9日(木) 13:30~16:30(2回目)
- 場 所 : 集合場所 東北大学病院がんセンターがんセンターボード室
(裏面地図参照)
- 対 象 : 先のピアサポーター育成研修に参加したことのある方
かつ本ステップアップ研修に2回とも研修会に参加できる方
- 参加費 : 無料
- 定 員 : 30名程度 (申し込み先着順)
- 内 容 : 講義(現在のがん医療、緩和ケア、口腔ケア、就労支援)、
グループワーク、ロールプレイ
- 申込方法 : チラシ裏面の申込用紙に必要事項を記載の上、
FAXでお申込みください。しめきり 6月26日(金)

主催 : 東北大学病院 がん診療相談室/がんセンター 先進包括的がん医療推進室
東北がんプロフェッショナル養成推進プラン
宮城県がん総合支援センター

お問い合わせ先

東北大学病院 がんセンター 先進包括的がん医療推進室
TEL: 022-717-8885 FAX: 022-717-8886 Email : ancercenter@hosp.tohoku.ac.jp

研修会風景

＝平成27年7月2日、9日＝



講義の様子



グループワークで体験や思いを語りながら学びを深める



ロールプレイでピアサポートを体験



修了証を手に 受講生全員集合！

がん患者会・サロンネットワークみやぎ

入場
無料

発足式 & 記念講演会

2015.10.27 火 14:00 ▶ 16:00

(開場13:30)

仙台市情報・産業プラザ ネットU セミナールーム (2)

(AERビル 6階 仙台市青葉区中央1-3-1 ☎022-724-1200)

定員
130名

宮城県内のがん患者会・サロンがつながり、
「がん患者会・サロンネットワークみやぎ」が発足します!!
がん患者と支援者が協働し、「がんになっても自分らしく
生きること」をめざして活動していきます。

がん患者会・サロンメンバー、
がん患者・家族、医療・福祉関係者、
行政担当者、ネットワークに関心を
お持ちの方、どうぞご参加ください!!

講演会のみ
ご参加でもどうぞ!

参加団体・施設名は
チラシ裏面を
ご覧ください!

第1部 14:00～15:00

ネットワーク発足式

- ① ネットワーク発足に至るまでの経緯説明
- ② ネットワークの活動目標の発表
- ③ 参加団体の紹介

第2部 15:00～16:00

記念講演会

「がん患者会がつながりあうことの意味」
～一人ひとりができること～

一般社団法人 グループ・ネクサス・ジャパン 理事長

一般社団法人 全国がん患者団体連合会 理事長

天野 慎介氏

主催: がん患者会・サロンネットワークみやぎ

お問い合わせ先: 東北大学病院がんセンター先進包括的がん医療推進室 ☎022-717-8885

宮城県がん総合支援センター(宮城県対がん協会内) ☎022-263-1560

発足式風景

＝平成27年10月27日＝

* 宮城県内の 21 団体の患者会・患者サロンが
この日、一つにつながりました！



吉田久美子代表あいさつ



来賓あいさつ



記念講演をいただいた天野慎介氏



加入団体から パネルを使用しての活動紹介

《 公開講座 & 交流会 》

『がんになっても 自分らしく生きる』

平成 28 年 1 月 27 日 (水)

13:30~15:30 〈 受付 13:00~ 〉

場所：中田保健福祉会館

(登米市役所 中田総合支所：登米市中田町上沼字西桜場 18)

対象：みやぎよろこびの会会員、近隣がん患者会の皆さま
一般市民

申込：電話、FAX、E-mail

参加費 無料

第 1 部

【講話】「リフレッシュすることの大切さ」(15分)

【実技】「からだを動かそう！」(15分)

軽い運動で身体をほぐしましょう

第 2 部

【語り合い】(70分)

“みんなが元気に過ごすために語り合いましょう”



主催：宮城県対がん協会

共催：登米市

みやぎよろこびの会

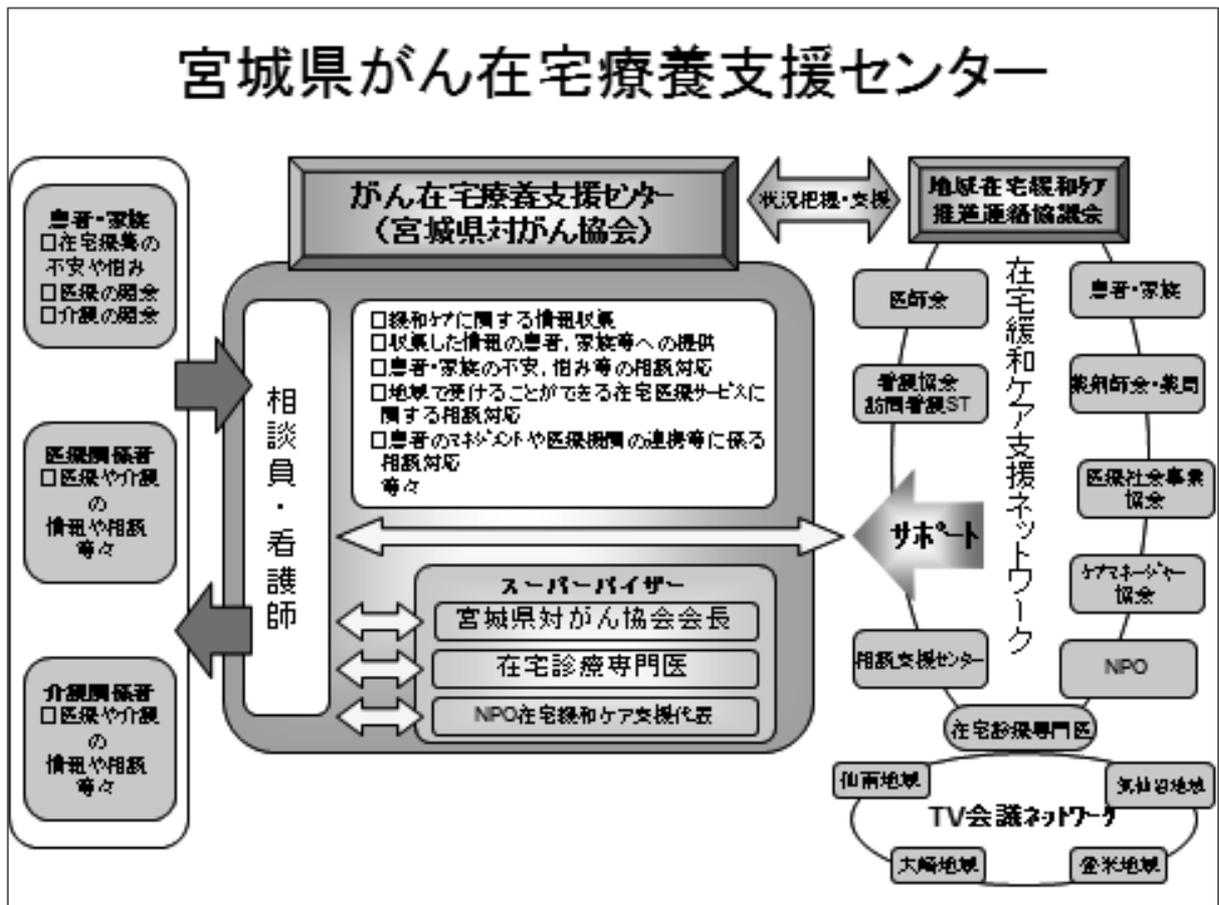
[連絡先] 宮城県対がん協会 (法人事業課)

電話：022-263-1637

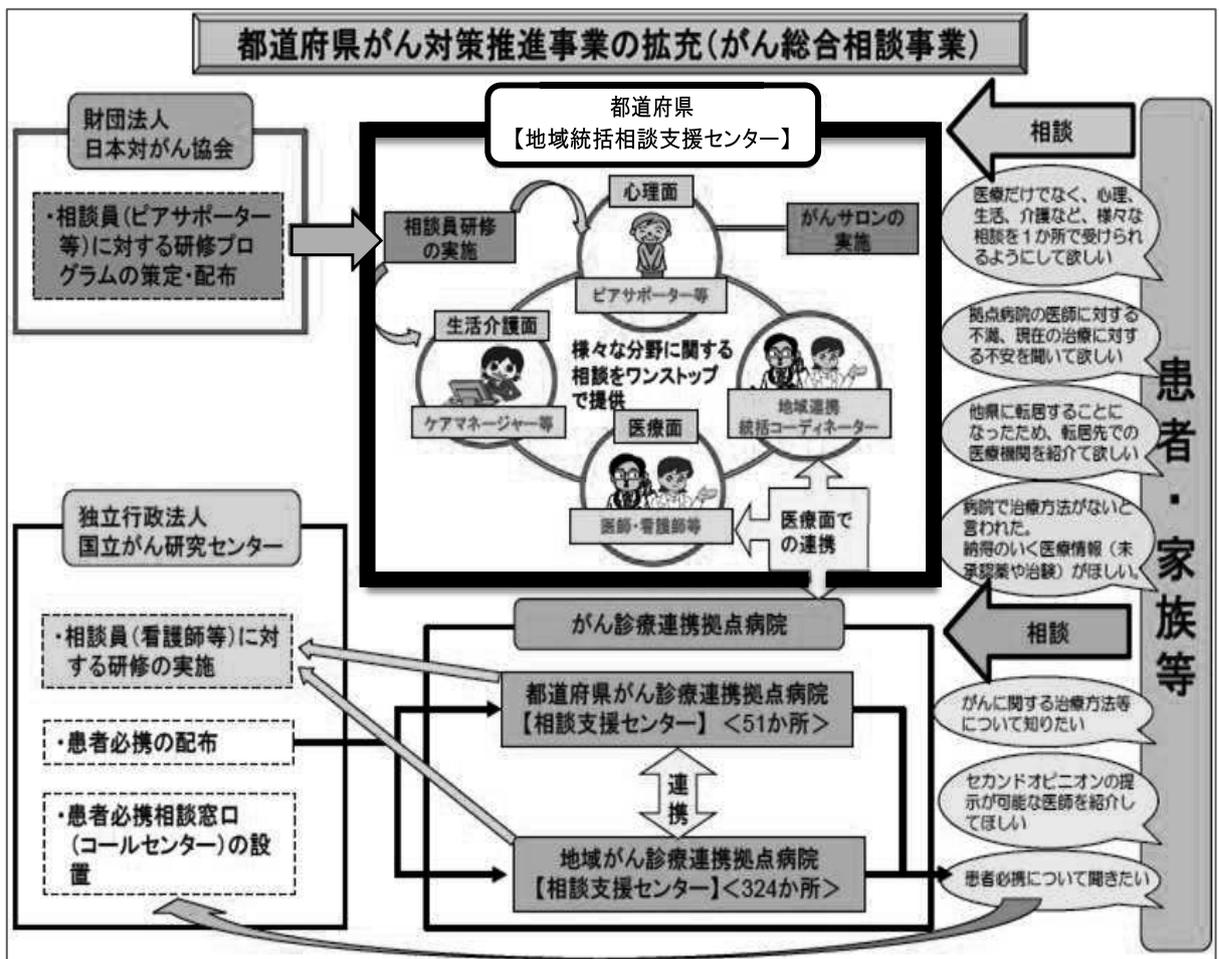
FAX：022-263-1548

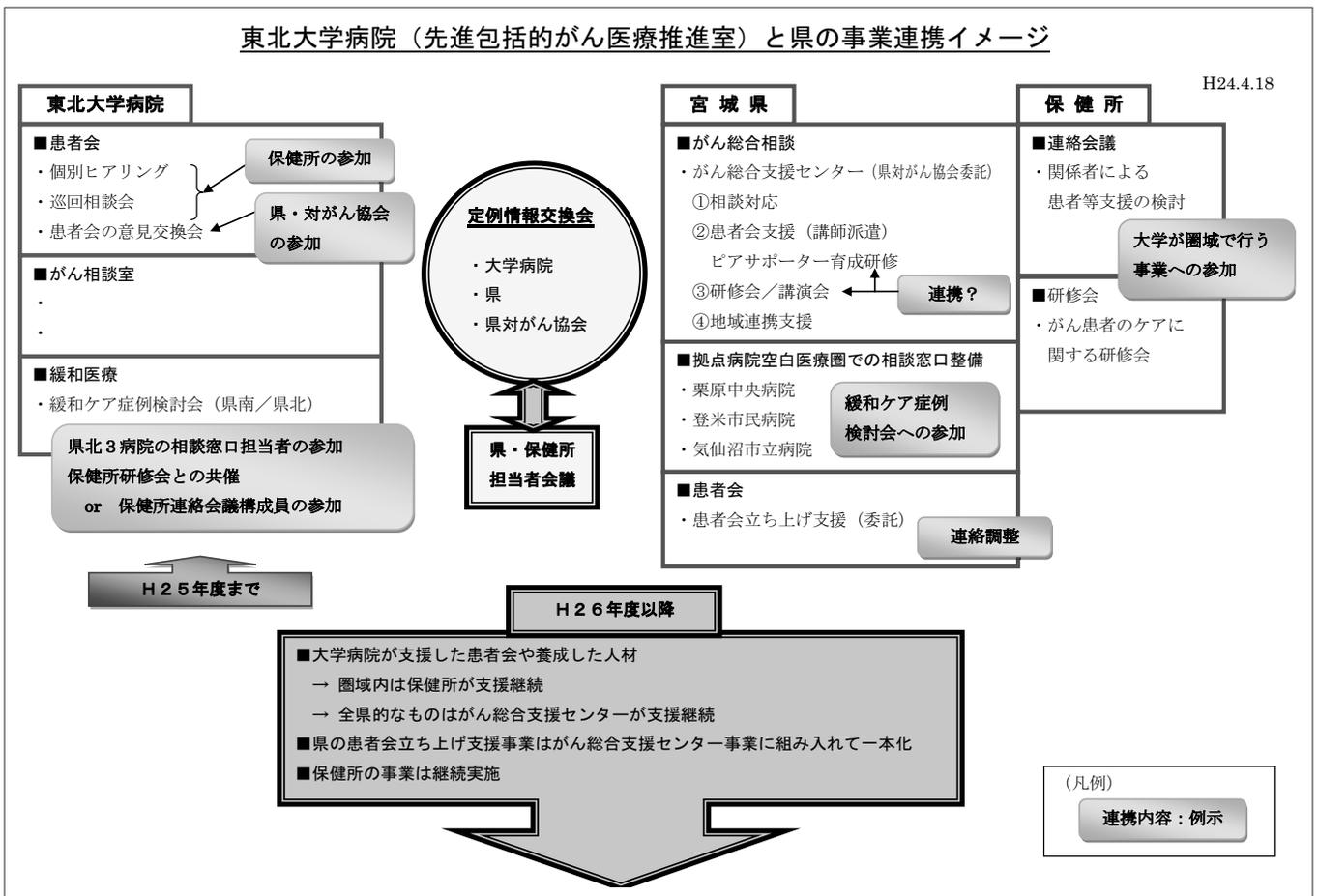
E-mail：houjin@miyagi-taigan.or.jp

3. 資料



= 平成 23 年度以降 =





* 「東北大学病院がんセンター先進包括的がん医療推進室」との事業連携について

東北大学病院で行われた事業は、厚生労働省補助金による宮城県の地域医療再生計画によるもので、その中の一つの事業として、患者会・がん相談・緩和医療の体制を全県下に整備することが含まれている。当初2年間の期限で実施された事業であったが、2年間延長され、平成24～27年度の4年間、患者会支援に関して、事業連携を図った。

平成28年度以降、患者会支援に関しては、当宮城県がん総合支援センターの事業に組み込まれ、一本化された。

がんで治療中の患者さんやご家族の方 在宅療養に携わっている方々へ

～がんなんでも相談
がん在宅療養のための情報提供～



宮城県がん在宅療養支援センター
(宮城県在宅緩和ケア支援センター)

宮城県がん在宅療養支援センターの相談窓口について

【相談方法】

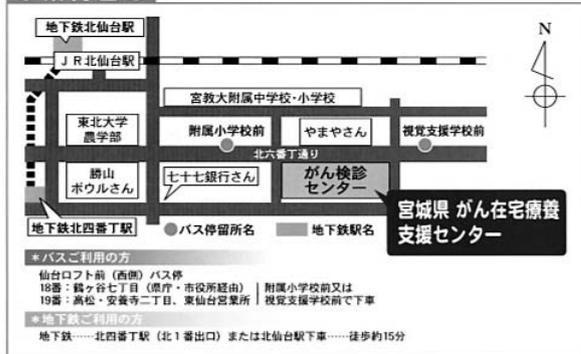
電話相談 受付時間内に下記の連絡先にお電話下さい。
面接相談 予約制になりますので、あらかじめお電話でご予約下さい。
その他 Eメール、FAX等でもご相談に応じます。
利用料 無料

【連絡先】

財団法人 宮城県対がん協会がん検診センター内
所在地 宮城県仙台市青葉区上杉5-7-30
TEL: 022-263-1560 (直通)
FAX: 022-263-1548
Eメール: zaitaku-gan@miyagi-taigan.or.jp

相談受付 月曜日から金曜日まで(祝日・休日は除きます)
午前9時から午後4時まで

●案内図●



宮城県がん在宅療養支援センター

宮城県では、在宅で療養中または外来通院されているがん患者さんやそのご家族の方々、在宅でがん患者さんの診療、看護、介護等に携わる関係者の方々を支援するため宮城県がん在宅療養支援センター(宮城県対がん協会がん検診センター内)を設置し、「がんなんでも相談」、「がん在宅療養のための情報提供」等を行っています。

※ どなたでも無料で相談いただけます

がんなんでも相談

在宅療養中の悩みや不安…たとえば

- 退院して在宅でと言われたけど、大丈夫が不安…
- 治療について、医師から説明を受けただけど、どうしたらいいかわからない
- がんと診断されたけど、セカンドオピニオンを受けたいけどどうしたらいいの？
- 治療中の副作用について
- 在宅療養をしたいがどのように始めればいいのかわからない
- 自宅で療養する際の心構えや注意することは…
- 患者の家族として、どうやって支えてあげればいいのか？

●緩和ケアとは●

「緩和ケア」とは、単に痛みなどの身体症状のコントロールだけでなく、心のケアも同時に行い、患者さんやご家族のQOL(生活の質)を総合的に高めることを目的として行われるものです。

がん在宅療養のための情報提供

- がん患者さんやご家族の方への情報提供
- 医療関係者や在宅療養に携わっている方への情報提供
- ・自分の地域で自宅に訪問してくれる施設を教えてください
- ・入院から在宅療養に切り替えたい患者さんがいるので、受け入れ可能な施設を教えてください
- ・患者会や家族会の情報がほしい
- ・在宅緩和ケアの関係施設やネットワークに関する情報がほしい

がんで治療中の患者さんやご家族の方 在宅療養に携わっている方々へ

～がんなんでも相談
がん在宅療養のための情報提供～



宮城県がん総合支援センター
022-263-1560(直通)

宮城県がん総合支援センターの相談窓口について

【相談方法】

電話相談 受付時間内に下記の連絡先にお電話ください。
 直接相談 予約制になりますので、あらかじめお電話でご予約ください。
 その他 Eメール、FAX等でもご相談に応じます。
 利用料 無料

【連絡先】

公益財団法人 宮城県対がん協会内
 〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉5-7-30
 TEL：022-263-1560(直通)
 FAX：022-263-1548
 Eメール：zaitaku-gan@miyagi-taigan.or.jp
 ホームページ：http://miyagi-gansupport.com/

相談受付 月曜日から金曜日まで（祝日・休日は除きます）
 午前9時から午後4時まで



宮城県がん総合支援センター

宮城県では、在宅で療養中または外来通院されているがん患者さんやそのご家族の方々、在宅でがん患者さんの診療、看護、介護等に携わる関係者の方々を支援するため宮城県がん総合支援センター（宮城県対がん協会内）を設置し、相談や情報提供、療養支援等を行っています。

◎ どなたでも無料で相談いただけます

在宅療養支援

- ・ 患者会等への支援（ピアサポーター育成（※））
- ・ 療養支援サポート
 研修会・講演会の開催
- ・ 出張相談や講師派遣
- ・ 在宅療養支援に関する調査・検討

（※）ピアサポートとは…
 「仲間同士の支え合い」を意味する言葉です。

がんなんでも相談

在宅療養の悩みや不安、たとえば…

- 退院して在宅でと言われたけど、大丈夫が不安…
- 医師からの病状や治療についての説明が、よくわからないわかるように教えて欲しい
- 治療について迷っているので、セカンドオピニオンを受けたいがどうしたらいいの…
- 治療中の副作用による苦痛を軽くできないか…
- 在宅療養をしたいがどのように始めればいいのかわからない
- 自宅で療養する際の心構えや注意することは…
- 患者の家族として、どうやって支えてあげればいいのか？

がん在宅療養のための情報提供

がん患者さんやご家族の方、在宅療養に携わっている方々への情報提供

- がんの知識や治療について知りたい
- 症状を緩和する方法はないか
- 自分の地域で自宅に訪問してくれるサービスを教えてほしい
- 患者会や家族会の情報がほしい
- 医療保険、介護保険、緩和ケアについて知りたい
- 医療費の助成について教えてほしい

宮城県がん総合支援センター

がんなんでも相談

無料



専門の相談員（看護師）がご相談に応じます。
お電話、FAX、Eメール、面談などご希望の方法で。
相談受付：月曜日から金曜日まで（祝日・休日除く）
午前9時から午後4時まで
*医師面談は完全予約制（30分）

公益財団法人 宮城県対がん協会内

宮城県がん総合支援センター

TEL：022-263-1560

FAX：022-263-1548

Eメール：zaitaku-gan@miyagi-taigan.or.jp

ホームページ：http://miyagi-gansupport.com/

<http://miyagi-gansupport.com/>

私たちの活動紹介や活動報告を随時更新しています。

ホームページ内お問い合わせフォームからも、直接ご相談可能です。

The screenshot shows the homepage of the Miyagi Cancer Support Center. At the top left is the logo and name: 公益財団法人 宮城県対がん協会 宮城県がん総合支援センター. To the right, there are contact options: 電話での相談・お問い合わせ (022-263-1560) and メールでの相談・お問い合わせ. Below this is a navigation menu with items like 支援センターご紹介, 活動紹介, 相談窓口について, 「がん」と言われたら, がん相談Q&A, and リンク集. The main banner features a photo of hands holding a heart and the text: がんに関する不安やお悩み… なんでもご相談ください. Below the banner, there is a section for がんで療養中の患者さんやご家族の方々, がんの診療、看護、介護等に携わっている方々へ, with a photo of a tree. On the left side, there is a map showing the center's location in Sendai, Miyagi, and contact information: 〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉5-7-30. At the bottom, there is a notice section (お知らせ) dated 2013.03.25 stating that the homepage was opened.

地域広報誌への 掲載例

* 市町村を訪問し、事業説明を行うとともに
地域広報誌への掲載を依頼した
その中で実際に掲載していただいた一例

お知らせ

「がん総合相談」のご紹介

宮城県対がん協会は、がん患者さんとご家族の皆さんの悩み、不安、疑問などについて医師による相談を行っています。また、宮城県から委託を受けて「宮城県がん総合支援センター」を設置し、専任の看護師による面談、電話、FAX、Eメールなどでも対応しております。いずれも無料で、どなたでもご利用できます。お一人で悩まず、お気軽にご相談ください。

公益財団法人宮城県対がん協会
☎ 022-263-1560

がん検診を受けましょう その2

村では、7月5日(火)から8日(金)までの各種健康診査とあわせて、次のがん検診を実施します。それぞれ当日の申し込みができますので、申し込まれていない方は、ぜひ受診されますようお勧めします。
(対象年齢基準：平成29年3月31日現在)

肺がん検診 40歳以上の方：レントゲン撮影(無料)

がんの死亡率を部位別にみると、男性の第1位、女性の第2位が肺がんです。肺がんは喫煙との関係が非常に高いがんですが、たばこを吸わない人でも発症することがありますので、定期的に検診を受けましょう。

前立腺がん検診 50歳以上の男性の方：血液検査(800円)

50歳以降に発症するケースが多く、平成32年には、男性のがんの中で第1位になると予測されています。初期の症状がほとんどありませんので、定期的に検査を受けて、早期発見・早期治療に努めましょう。

肝炎ウイルス検診 40歳になる方・40歳以上で受診されたことのない方：血液検査(無料)

肝臓の機能が失われていく病気で、肝硬変や肝がんに至ることもあります。肝炎になっても、肝臓はなかなか505を出しません。「体がだるい」と気づく頃には、かなりの重症になっています。B型肝炎・C型肝炎の検査が無料で受けられますので、まだ検査をされていない方はぜひ受診をお勧めします。

*この他に、40・45・50・55・60・65・70歳の女性を対象とした骨粗鬆症検診も実施します。健診当日の申し込みが可能です。(1,000円)

■問い合わせ先 健康福祉課 ☎343-9253

がんなんでも相談 「宮城県がん総合支援センターの相談窓口」

宮城県では、在宅でがんの療養中又はがんの治療で外来通院されている患者さんやそのご家族の方々を支援するため、相談や情報提供を行っており、どなたでも無料で相談できます。

【相談方法】 電話相談：受付時間内に下記の連絡先に電話してください。
面談相談：予約制になりますので、あらかじめ電話でご予約ください。

【相談受付】 月～金曜日(祝日・休日は除く) 午前9時～午後4時

【連絡先】 公益財団法人 宮城県対がん協会内
宮城県がん総合支援センター ☎263-1560

❖❖❖❖❖ 1月の無料相談窓口 ❖❖❖❖❖

	日 時	場所・その他	電 話
無料法律相談	11日(水)・25日(水)	13:30~16:30 役場2階議会図書室(受付：総務課人事法令班) (予約制；空きがある場合当日も可)	☎767-2192
青少年教育相談ダイヤル	平日	9:00~16:00 教育相談専門員が相談に応じます	☎356-0783
健康相談	16日(月)	9:30~11:00 保健福祉センター ※妊婦さんの口腔チェックを希望の方と成人の方の健康相談は要予約	☎356-1334
育児や健康に関する電話相談	平日	8:30~17:00 保健福祉センター	☎356-1334
高齢者総合相談	平日	9:00~17:00 中央地域包括支援センター(社会福祉協議会内) 北部地域包括支援センター(しらかし台集会所隣)	☎353-7322 ☎767-7677
社会福祉協議会でやっている相談	24日(火)	10:00~15:00 利府町中央2-11-1(十符の里プラザ内) 生活・人権・行政・障害・生活保護相談	☎356-9060
障害者相談	平日	9:00~17:00 地域支援センター ばれっと さんのう 障害者相談支援事業所 ひまわり	☎767-6646 ☎090-1493-0569 ☎356-1334(内線65)
肝炎検査・HIV検査・骨髄バンク登録	18日(水)	予約制 塩釜保健所(塩釜市北浜4-8-15)	☎363-5504
こころの相談	12日(木)・26日(木)	予約制 塩釜保健所(塩釜市北浜4-8-15)	☎363-5502
ひきこもり・思春期こころの相談	11日(水)	予約制 塩釜保健所(塩釜市北浜4-8-15)	☎363-5502
アルコール・薬物関連専門相談	19日(木)	予約制 塩釜保健所(塩釜市北浜4-8-15)	☎363-5502
がん なんでも相談	平日	9:00~16:00 宮城県がん総合支援センター	☎263-1560
女性医師による女性の健康相談	平日	9:00~17:00 宮城県女医会女性の健康相談室	☎090-5840-1993
ひとり親家庭を対象とした無料法律相談	15日(日)	予約制 宮城県母子・父子福祉センター	☎256-6512
みやぎ訪問歯科相談室	平日	9:00~17:00 一般社団法人 宮城県歯科医師会 病氣や障害などのため通院できない方が対象	☎290-1510

4. 活動をふり返って

宮城県がん総合支援センターの役割

元 宮城県対がん協会 保健師 高橋久子
(発足時の看護課長)

平成 22 年 1 月 22 日の私の手帳には、「在宅緩和ケア対策推進事業を県より受諾。心を引き締めて取り組もう。」と記されています。これまで紆余曲折があり、現在は「宮城県がん総合支援センター」と名称が変わっていますが、当初は、新しく 2 名の相談員を迎え、不安な中でのスタートとなりました。平成 23 年には国からの事業内容・要綱等がはっきりと示されていないまま、「都道府県がん対策推進事業の拡充」という県からの説明を受け、以後県と運営委員との協議を重ねながら事業の充実に努め、今日に至っています。

この度、5 年誌を発行するに当たり、これまで多くの方々に支えていただきましたことに、立ち上げ人の一人として心から感謝申し上げます。

本事業は、県立がんセンターから引き継いだものですが、対がん協会に置く意義はどこにあるのか、拠点病院とは異なる当方の役割とはどんなことであるのかを模索してきました。

その中で確認したことは、

- ・ 対がん協会ががん検診等を通じて長い年月地域に浸透していること。従って、健康なときから存在を知っていただくことができるので、がんと診断されて一番不安な時にすぐに相談できる窓口になれる
- ・ 治療している病院ではなかなか相談しにくいことでも、中立的な立場でアドバイスすることができる
- ・ がんと診断されたときから、治療中、退院して自宅で過ごすとき、また職場に復帰する場合など生活者の視点でトータル的にかかわることができる

ということです。そして、私たちはその必要性を信じてこれまで活動してきました。

がん患者さんにとって信頼し相談できる場があること、どんなときも受け止めてくれるところがあることは大きな安心につながっていると思います。

がん相談事業から始まった事業でしたが、現在では、患者会支援およびピアサポーター育成、研修会・講演会の開催や地域連携支援など活動の場は広がっています。

今後ますます宮城県がん総合支援センターの果たす役割は大きくなるでしょう。そして、きっとその要望に応えていけると確信しています。

支援センターに寄せる思い

相談員 谷川禎子

がんとの出会いは、昭和40年代の看護学生の時代に遡ります。当時白血病だった大学生の衝撃的な看取りの経験から始まりました。看護師になってからは、終末期の患者さんを、札幌から信州の実家まで、主治医と共に飛行機での護送をしました。昭和50年代の東京の病院では、抗がん剤の治療や人工肛門がつくられるようになりました。乳がんの患者会が始めてできたのもこのころでした。そして平成に入り介護保険が創設されました。介護支援専門員の資格も取り、在宅で療養するがん患者さんやご家族とかかわる訪問看護師として、人生そのものに関わるようになりました。

一線の看護師としての定年が過ぎ、患者会の支援や後輩の教育の手伝いをさせていただいていたところに、国や県もがん対策に力を注ぐ時代に発展してきました。県立がんセンターでも、緩和ケア病棟が開設され、平成20年に宮城県在宅緩和ケア支援センターが県の事業で始まりました。その2年後、県立がんセンターから宮城県対がん協会内に引き継ぐ形になり、相談員としてかかわらせていただくことになりました。

このころから、相談もワンストップで、病院から在宅までのフォローを求められました。病院から在宅への連携などの経験は、かなり助けになりました。しかし、がん治療などの格段の進歩や、精神的な支援の重要さは年々増し、日々研鑽を積まなければなりませんでしたが、やりがいのある仕事でした。

相談を始めたころは、専従ではなく、何種類かの仕事が重なっておりました。そのため、一緒に取り組んでくれる相棒の存在は大きく、以後二人三脚で、相談者の支援を行ってきました。その相棒の田村さんとは、県庁に設置された新型インフルエンザの相談業務でたった一日一緒に仕事をした人でした。親子ほど年の差はありましたが、同じ空を見て進んでいくことができました。必然の出会いでした。

世の中の変化に伴い、業務も相談にとどまらず、がん患者さんの研修や、患者会への支援に広がってきました。そんな中、この支援センターで、がん告知から、在宅で亡くなるまでの1年7カ月間継続して、医療や家族関係、人生の価値観などに悩んでいた人の相談にかかわる貴重な体験をしました。がんになると、人生そのものを考えざるを得ない状況に足を踏み入れます。自分で納得のいく答えや決断をするうえで、相談できる場は、がんと共に生ききるための、ささやかな道標になるのではないかと考えています。

歴代運営委員 及び 事務局・相談員 名簿

		H22	H23	H24	H25	H26	H27	
運営委員長	渋谷 大助	→						
運営委員	小笠原 鉄郎	→						
	岡部 健	→						
	川島 孝一郎			→				
	中井 裕之					→		
	中山 康子	→						
	五十嵐 ひとみ				→			
	浦山 美輪					→		
	三上 雅嗣		→					
	伊藤 久美子		→					
	伊澤 ひとみ			→				
	松浦 千春					→		
	事務局 (宮城県) (対がん協会)	後藤 百合子	→					
千坂 さつき				→				
玉川 拓				→				
三塚 篤		→						
阿部 洋				→				
高橋 啓						→		
村上 裕一		→						
永窪 紀代美						→		
高橋 久子		→						
佐々木 政子			→					
針生 一恵		→						
齋藤 千晴		→						
佐藤 真由美			→					
堀江 記子					→			
面川 奈津子						→		
相談員		谷川 禎子	→					
		田村 久美子	→					

編集後記

5年間の活動を冊子にまとめる話が決まり約10か月。無事に完成するかとヒヤヒヤしましたが、なんとか完成までこぎつけました。作業を行って改めていろいろな方々にご協力をいただきながら、活動してきたのだと痛感しました。

最後になりましたが、今まで活動を支援していただいた皆様に感謝いたしますとともに、今後ともご指導ご支援のほどよろしくお願いいたします。

〈 編集員：菊地永一郎、佐藤真由美、面川奈津子、谷川禎子、田村久美子 〉

発行日 平成29年3月

発行者 宮城県がん総合支援センター

〒980-0011

宮城県仙台市青葉区上杉5-7-30

宮城県対がん協会内

☎ 022-263-1560
